令和2年度 授業計画書(シラバス) ~2年~



宮崎県立農業大学校

令和2年度実施 専攻別教育課程表 (2年生)

								,	農学和	斗専攻	ζ		音	産学	科専	攻
種別	学科	区分	科 目 I D	2年生 開講科目	単位数	授業時数	作物	野菜	花	果樹	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚
教	全	必	K201 K202	保健・体育 くらしと法律・経済	1	15 15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
養科	全学科	修	K203 S201	英会話 英語特別講義Ⅲ	1 1	15 15	<u></u>	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A	Ŏ A
目	17	選択	S202	就職対策Ⅱ	1	15	A	A	A	A	A		A	A	A	A
		必修	M201 M203	アグリビジネス インターンシップ Ⅲ	1 1	15 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			M204 M202	卒業論文 農業生産工程管理(GAP)	<u>4</u> 1	60 15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全学	般	M205	海外農業研修	2	60	Ŏ	Ŏ	Ŏ	Ŏ	Ŏ	0	0	Ŏ	Ŏ	0
	科		M206 S203	植物バイオテクノロジー	1	15 15	<u> </u>	<u></u>	<u>○</u>	<u> </u>	<u>○</u>	<u> </u>	<u>○</u>	0	0	0
		選択	S204 S205	微生物活用 商業簿記	1 2	15 30	A	A	A	A						
		扒	S206 S207	会社経営 (フード以外) 教育実習	2	30 30	A	A	A	A						
			A201	専攻実習 (農学)	15	450	0	0	0	0	0					
			A202 A203	時間外実習(作・野・花・果・茶 作物の栽培管理	4 1	120 15	00	0	0	0	0					
		必	A204 A205	施設野菜の栽培管理 花きの栽培管理	1	15 15		0	0							
		修	A206	果樹の栽培管理	1	15				0						
			A207 A208	茶の栽培管理 茶の歴史・文化	1 1	15 15					0					
			A220 A209	営農計画作成 作物の流通・販売	1 1	15 15	0	0	0	0	0					
	農学		A210	施設野菜の流通・販売	1	15 15		0	0							
	科		A211 A212	花きの流通・販売 果樹の流通・販売	1	15				0						
			A213 A214	茶の流通・販売 作物経営コンサルティング	1 1	15 15	0				0					
		一般	A215 A216	施設野菜経営コンサルティング 花き経営コンサルティング	1 1	15 15		0	0							
		/4X	A217	果樹経営コンサルティング	1	15				0						
専			A218 A219	茶経営コンサルティング 育種と知的所有権	1 1	15 15	0	0	0	0	0					
門科			A221 A222	法人経営 先進農業事例研究	1 1	15 15	0	0	0	0	0					
目			A223 Z201	農業指導演習 専攻実習(畜産)	1 14	15 420	Ŏ	Ō	Ō	Ō	Ö			0	0	0
			Z202	時間外実習(肉用牛・養豚)	4	120								0		0
			Z203 Z207	時間外実習(酪農) 肉用牛経営の事例研究	4 1	120 15								0	0	
		3/	Z208 Z209	酷農経営の事例研究 養豚経営の事例研究	1	15 15									0	0
		必修	Z210 Z211	肉用牛の飼養管理 乳牛の飼養管理	1 1	15 15								0	0	
	畜		Z212	豚の飼養管理	1	15										0
	産学		Z213 Z214	肉用牛の飼料設計 乳牛の飼料設計	1	15 15								0	0	
	科		Z215 Z216	豚の疾病と衛生 育種と繁殖	1 2	15 30								0	0	0
			Z204	肉用牛経営コンサルティング	1	15								Ö		
		_	Z205 Z206	酪農経営コンサルティング 養豚経営コンサルティング	1	15 15									0	0
		般	Z217 Z218	家畜の衛生と環境 家畜と解剖	1	15 15								0	0	0
			Z219 Z220	畜産の新技術 畜産物の加工と流通	1	15 15								0	0	0
	フ		F201	専攻実習 (フード)	9	270						0	0			
	ド		F202 F203	時間外実習 (フード) 食品関連企業実習	3	120 90						0	0			
	ピ	必修	F204 F205	会社経営(フード) 食品化学	2	30 15						0	0			
	ジネ	1:	F206	食品製造実習	3	90						0	0			
	ス 専		F207 F208	新商品開発 フードビジネス	2	30						0	0			
	攻	一般	F209 F210	商品開発と流通販売 6次産業化	1 1	15 15						0	0			

			수	1和2年度	授第	[書画情	シラバス	ス]					
科目名	К2	01	保健・	・体育	学科名	G 全学科	学年	2年		学期	後期		
授業の方法		講義	区分	必修	単位数	文 1	時間数	15		開講時期	9月~11月		
科目の概要	生涯	[スポー)	ツの実践 [、]	や健康につい	て、理	論と実践をと	おして学	<i>ప</i> .					
講師名		大学校耶 3講師								経験のある教 る授業科目			
到達目標						め、チームに 解を深め、健				」を養う。			
使用教材		、施設 の準備で	する教材										
	方法 知識 (90点) 出席率 (10点) 学習態度(減点) 講義終了後のレポートにより評 出席率に応じた係数を乗じた点 授業中の態度、提出物により												
成績評価	法												
				授業の計	·画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)					
回				内	容				時間		備考		
1	各ス	ボーツの	の基本技術	術習得					1				
2	各ス	ボーツの	の基本技行	術習得					1				
3			の基本技術						1				
4				ポーツの実践					1				
5				ポーツの実践					1	+			
6 7				ポーツの実践 ポーツの実践					1				
8				ポーツの実践					1				
9				ポーツの実践	-				1	+			
10				ポーツの実践					1				
11	試合	形式に。	よる各ス	ポーツの実践	į				1				
12	試合	形式に。	よる各ス	ポーツの実践	į				1				
13	試合	形式に。	よる各ス	ポーツの実践	į				1				
14	試合	形式に。	よる各ス	ポーツの実践	Î				1				
15	生涯	€を通じる	る健康に	ついての講話	i				1				
授業時間外に 必要な学修													
再試験及び補 習対象の実施 基準													

			수	1和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]					
科目名	K202	< <u>E</u>	っしと法律	津・経済	学科名	全学科	学年	2年	学期	前其	朔		
授業の方法	講	É	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月~	6月		
科目の概要	・暮ら ・国内	しに!!	関わる法律 県内の経済	津と身近な経 済情勢と県内	経済につい 1企業の経	ヽて学ぶ ≧営動向を学	ぶ		•	•			
講師名				やぎん経済研 教授 (5)	F究所主任	任研究員(5)) ,		※務経験のある 等による授業科				
到達目標	将来の	農業網	経営者と	して必要な経	経済及び法	会律に関する	基礎知識	を身につけ	⁺ る。	-			
使用教材	講師が	作成〕	した配布	資料									
方法 知識 (90点) 出席率 (10点) 学習態度(減点) 試験を実施し、理解度を評価す 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により													
法													
				授業の計	·画(授業	の回数やス	ケジュー	ル)					
口				内	容			時	間	備考			
1	夫婦と	親子の	の法律			_	1		1 4,	月9日 2限	目		
2				買と契約含む	-				1 4,	月9日 3限	目		
3			る法律(生	生産法人、6	次産業化	(含む)				16日 2限			
4	職場の		/!	30 o ***	 					16日 3限			
				国民の義務と	(権利)		J			123日 2限			
6 7	I経済		xi を取り巻・	/ 環接			}			23日 3限 30日 2限			
8			を取り巻							30日 3限			
9			景気動向	, >N Ju						月7日 2限			
10			り巻く環境	竟 試験		_				月7日 3限			
11	経営・	マーク	ケティン	グ戦略の基本	:	_]		1 5月	14日 2限	:目		
12	生産・	流通	・販売活	動を通じた付	加価値沿	手動			1 5月	14日 3限	: 目		
13	"(ワ	ークミ	ショップ)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					1 5月	121日 2限	.目		
14			レープご	とに)					1 5月	121日 3限	. 目		
15 受業時間外に 必要な学修	まとめ	試題)			<u>-</u>			1 5 <i>F</i>	128日 3限	<u>目</u>		
再試験及び補 習対象の実施 基準													

			수	ì和2年度	授業	美計画書[シラバス	₹]						
科目名	K203	3	英名	 会話	学科名	全学科	学年	2年		学期	後期			
授業の方法	講	靠義	区分	必修	単位数	1	時間数	15		開講時期	9月から1月			
科目の概要	基礎的	的な英語	吾の能力、	技能を養う					_					
講師名	内藤画	直美							実務経等によ	≧験のある勃 こる授業科↓	数員 目			
到達目標	海外研	肝修にお	おける簡単	単なあいさつ)、目常	会話ができる	ようにな	る						
使用教材	講師の	の準備す	ける資料											
	方法 知識(90点) 出席率(10点) 学習態度(減点) インタビューテスト、リスニン 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により グラストによりのも満点で評価 数トナス													
成績評価	5	インタビューテスト、リスニン 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により グテストにより90点満点で評価 数とする。												
				授業の計	画(授	業の回数やスク	ケジュー	ル)						
口				内	容				時間		備考			
1	英会記	舌 1							1	9/	8 2.3限目			
2	英会記	舌2							1	9/1	15 2.3限目			
3	英会訂								1		/6 2.3限目			
4	英会記								1		13 2.3限目			
5	英会記								1		限目 農10/27 2限目			
6 7	英会計								1		限目 農10/27 3限目 10 2.3限目			
8	英会記								1	_	17 2.3限目			
9	英会記								1		24 2.3限目			
10	英会訂								1	12,	/1 2.3限目			
11	英会記	舌11							1	12,	/8 2.3限目			
12	英会訂								1		15 2.3限目			
13	英会記								1		8 2.3限目			
14	英会記								1		12 2.3限目			
15 授業時間外に 必要な学修	英会言	<u>† 1 5 </u>							1	1/.	15 2.3限目			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。													

			4	育和2年度	授	業計画	画書 [:	シラバス	ス]					
科目名	M20	01	アグリ	ビジネス	学科	名 3	全学科	学年	全学	年	学期		通年	
授業の方法	Ī	講義	区分	必修	単位	数	1	時間数	15		開講時期	7	月~10月	
科目の概要	の最	前線	について学	で活躍されて 習する。その トや手法につ	り中でイ	企業にし	や関係機 ハたるま	関の専門 での経緯	家を講師や経営理	Fとし ■念等	、て招聘し、` ≨からアグリ	アグビジ	リビジネス ネスを成功	
講師名	外部	講師									系経験のある よる授業科			
到達目標	アグ	゚゙リビ	ジネスの現	状と課題につ	ついてタ	理解を消	架める							
使用教材	方法 知識 (90点) 出席率 (10点) 学習態度(減点) 学習態度(減点) 講義ごとのレポートにより評価 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により 数とする。													
		方												
成績評価	講師が準備する資料 方													
				授業の記	十画(哲	受業の回	回数やス	ケジュー	ル)					
回				内	容					時間		備	考	
1	アグ	゚リビ	ジネス分野	で活躍されて	ている糸	圣営者等	等の講義				7/	13	3限目	
2				で活躍されて							7/	20	2限目	
3				で活躍されて								20	2限目	
4				で活躍されて								′27	2限目	
5				で活躍されて								27	3限目	
6 7				で活躍されて									2限目	
8				で活躍されて								/7 /14	3限目 2限目	
9			. ,	で活躍されて								14	3限目	
10				で活躍されて								28	2限目	
11			. /•	で活躍されて								['] 28	3限目	
12	木村	幸司	氏 (KIMUER	A FARM) 仮							10)/5	2限目	
13			JJ								10)/5	3限目	
14	アグ	゚゙リビ	ジネス分野	で活躍されて	ている約	圣営者	等の講義				10	/12	2限目	
15	アグリビジネス分野で活躍されている経営者等の講義										10	/12	3限目	
授業時間外に 必要な学修	外に													
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	とし	て実施しな	いが、特別な	な事情が	があるり	場合は申	し出るこ	と。その)後別]途通知する。	,		

			令	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	\]						
科目名	M20)2- 農	業生産工 (HA(程管理 Ⅱ C C P)	学科名	全学科 7-ドビジネス	学年	2年	学期	前後期				
授業の方法		講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月~6月				
科目の概要	して AC	HAC(CPの	CPに沿・ 既略につい	った衛生管理	!手法が必 もに、食	公要となった。 その安全性に関	食品製造	における行	新生管理や一般	事業者は、原則と 設的衛生管理やH ン安全・安心の商				
講師名	N	「PO法」	宮崎?	十成氏(なか 食品安全研究 ネス専攻 教	会会長				務経験のある による授業科					
到達目標	学生 取り	Eが、農 入れた衛	畜産物を 衛生管理	利用した加工 計画に基づき	品を製造 、安全な	造する中で、F ₹食品製造の重	HACCP 重要性につ	による衛生	生管理やHA(解することを到	CCPの考え方を 引達目標とする。				
使用教材 講師が準備する資料 HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書 (発行:厚生労働省)														
方法 知識(90点) 出席率(10点) 学習態度(減点)														
成績評価	法													
				授業の計	画(授美	業の回数やスク	ケジューハ	レ)						
□				内	容			時	間	備考				
1~3				生管理につい 品衛生法、食		つる国際基準と	ヒ国内法の)関 3	3	外部講師				
4~6	食品	衛生 7 5	S従業員	生とHACC 教育)、HA 2000の概略に	ССР、)組み JFS-B,	C規格、	I 3	3	外部講師				
7~8	のH 殺菌	[ACC] i理論概問	P システ、 各、コッ [*]	ム構築	НАСС	なび学校給食月 CPプラン作品			3	外部講師				
10	テス	. }						1		外部講師				
10~15	視察	孫研修 1	食品関連企	企業における	НАСС	CPの取り組み	<i>y</i>	5		大学校職員 関連企業				
授業時間外に 必要な学修	予習	7、復習》	及び試験に	こ向けた学習	ı				'					
再試験及び補 習対象の実施 基準	管理	運営要領	頁の特別に	な事情に当た	る場合り	以外、原則とし	して再試験	は実施した	ない。					

				和2年度	授業	計画書[:	シラバス	.]						
科目名	M202- 畜	農	業生産工 (G <i>A</i>	程管理 Ⅱ A P)	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前期			
授業の方法	講拿	É	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	4月~6月			
科目の概要	・農業 学ぶ。	生産に	こおいて、	消費者から	信頼され	1る安全・安心	いな農産物	を提供	する手法	としてG	APの考え方を			
講師名	・宮崎		農学部職員 交職員							検のある教 る授業科目				
到達目標	・農業 ・GA	生産 P維持	工程管理 寺・更新領	(GAP)の 審査にて対応	考え方を	を理解させ、 知識を習得す	具体的なりる。	リスク管	言理を習得	导する。	•			
使用教材	• 講師	準備資	資料											
	方法 知識(90点) 出席率(10点) 学習態度(減点) 試験を実施し、理解度を評価す 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により													
成績評価	試験を実施し、理解度を評価す 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により 数とする。													
				授業の計	画(授業	美の回数やス	ケジューハ	/)						
口				内	容				時間		備考			
1	GAP	の基础	遊 ①						4/20					
2	GAP	の基礎	進 ②					10:	00~12:10					
3			証と導入					10.	4/27					
4			Pの概要					10:	00~12:10					
5	-		の考え方	N IF				10:	5/11 00~12:10					
6 7			おけるリン		カ八七			- 10	00 12-10					
8			リスク分析	こおけるリス	クガ州			10:	5/18 00~12:10	担当講	師:宮崎大学			
9				<u>′</u> クリストの解	(説①				F /0F					
10				クリストの解				10:	5/25 00~12:10					
11				大校ほ場)					6/1					
12	GAP	現地码	研修 (農)	大校ほ場)				10:	00~12:10					
13	認証制	G <u>A</u>]	Pの解説(D					6/8					
14	認証制	GĀ	Pの解説(2				10:	00~12:10					
15	試験							10:	6/15 00~12:10	担当	講師:垂水			
授業時間外に 必要な学修														
再試験及び補 習対象の実施 基準														

		4	和2年度	授美	業計画書[シラバン	ス]							
科目名	農業生産	工程管理	(G A P)	学科名	名 農学科	学年	2年	= =	学期	前期				
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	女 1	時間数	15	開記	構時期	4月~6月				
科目の概要	・農業生産(学ぶ。	こおいて、	. 消費者から	信頼さ	れる安全・安心	かな農産物	を提供	する手法と	こしてGA	APの考え方を				
講師名	宮崎大学							実務経験のによる授業]等				
到達目標					を理解させ、知識を習得さ		リスクヤ	管理を習得	させる。					
使用教材	・講師準備	資料												
成績評価	大 知識 (70点) 学習態度 (20点) 出席率 (10点) 出席率に応じた係数を乗じた点数 とする。													
			授業の詩	十画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)							
口			内	容				時間		備考				
1	GAPの基礎	遊 ①						4/20						
2	GAPの基礎	Č					13	:10-15:20						
3	GAPの認						10.	4/27						
4	ひなたGA						13	:10-15:20						
5	リスク分析の						12	5/11 :10-15:20						
6	生産工程に			2 N 10			10.	10-15-20		宮崎大学				
7 8	農産物取り 労働安全の		こおけるリス	ク分析			13:	5/18 :10-15:20		農学部				
9			ツ クリストの解	:静①					真	智代 先生				
10			<u></u>				13	5/25 :10-15:20						
11	GAP現地の							6/1	1					
12	GAP現地の						13	:10-15:20						
13	認証制GA							6/8	1					
14	認証制GA	Pの解説(2				13	:10-15:20						
15	試験						13	6/15 :10-14:10	農業为	、学校指導職員				
授業時間外に 必要な学修	授業時間外にたける													
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則して再記	試験は実	施しない。											

			수	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]					
科目名	M20)3	インター:	ノシップⅢ	学科名	全学科	学年	2年		学期		後期	
授業の方法	Ş	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開	講時期	9	月下旬	
科目の概要	農	業以外の	の業種で	の職業体験	•				•				
講師名	県	内福祉	事業所、個	保育施設等 <i>0</i>)専門職員	l				険のある。 る授業科		0	
到達目標	異	業種では	の研修に	より視野を広	ぶげ、柔軟	な社会性や	人間性を具	身につける	5 .		•		
使用教材													
	方法 研修日誌(20点) 研修報告書(30点) 研修評価書(30点) 出席(20点)												
成績評価	・ 日数: 2点/1日 ・ 提出 ※講師の採点による。 出席率に応じた係数 ・ 内容 提出有り: 10点 ※講師の採点による。 出席率に応じた係数 乗じた点数とする。												
				授業の記	十画(授業	美の回数やス/	ケジュー	ル)					
回				内	容			Б	侍間		備	考	
1 日 目 2 日 目	• 研(• 実 [;]	修先の3	事業概要(学とおし [、]	こついて学る て関連事業に	š。 L関する知	識や技術を含	学ぶ。	1 8	8 時間			経験 のあ する。	
4 日目 ~ 5 日目	る職員に限定する。 ・説明等を講義形式で行う場合がある。 ・講師等との意見交換をとおして、受入れ先の業務の実態や自分の将来の職業との関連、相違について理解を深める。												
授業時間外に 必要な学修													
再試験及び補 習対象の実施 基準	原! る。	ー 則とし [、]	て実施し	 ないが、特別	」な事情が	ある場合は教	— 数務学生記	― 果へ申し出	出ること	。その後	、別途	金通知す	

			令	和2年度	授業	計画書[シラバ	ス]					
科目名	M2()4- 隻	卒業	論文	学科名	農学科	学年	2年	学期	ı	後期		
授業の方法		演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時	:期	9月~12月		
科目の概要				営におけるテ ・まとめ等を						成する。	その計画に		
講師名	農	業大学村	交指導職員						務経験のな こよる授業				
到達目標				実施、調査 農業の担い手					題解決能	力及び	哉培技術・経		
使用教材	名	指導者為	が準備する	る資料									
成績評価	方 法課題設定 (10点)実施内容 (20点)データ整理 (20点)論点整理 (20点)自主的取組 (30点)課題の背景が整 理されているか を評定する。課題設定と実施内容 の整合性がとれてい るかを評定する。 A (良い) 10点 B (普通) 5点 C (悪い) 3点調査結果やまとめ、 れ、データの分析が できているかを評定 する。 A (良い) 20点 												
							15点	B (普通) I C (悪い) I	15点	B (普)			
				授業の計	一画(授業	どの回数やス	ケジュー	ル)	,				
口				内	容			時間	Ī.	備	考		
1	卒業	(論文の)	進め方 (>	オリエンテー	ション)			1					
$2\sim5$	テー	マの設定	定と研究P	内容の検討				4					
			合った実置	銭・調査				35					
$40 \sim 50$				1. 12.				10					
51~60		に聞入こ		_ ~				10					
授業時間外に 必要な学修	卒業	を論文の 何	乍成										
再試験及び補 習対象の実施 基準	及び補 の実施 原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる。												

		ŕ	3和2年度	授業	計画書[シラバス	ス]								
科目名	M204- 畜	卒業	論文	学科名	畜産学科	学年	2年	学	4期	前・後期					
授業の方法	実習・泡	寅習 区分	必修	単位数	4	時間数	60	開請		4月~1月					
科目の概要			経営における 調査・まとめ							成する。その計					
講師名	農業力	大学校指導職	員:来間大志	·、谷口美	美津子、佐藤	登士夫、		実務経験 等による							
到達目標			画、実施、調 向上等農業担					て、課題が	解決能力	力及び畜産技					
使用教材	• 講師/	作成資料													
	法	法 地域農業及び自 試験区の設定や調査 データを正確に取得 データの分析・検討 主体的に取り組ん 家経営の現状に 項目等研究内容が課 しているか、課題解 が的確に実施できて でいるか、また、													
成績評価	家経の鑑み	家経営の現状に 項目等研究内容が課 しているか、課題解 が的確に実施できて でいるか、また、 鑑み、テーマの 題解決のための内容 決にむけたデータの いるか、また、結果 他の学生や職員等 設定がふさわし になっているか、ま 整理が行われている を地域農業及び自家 と連携しながら目 いかの視点で評 た、研究内容に創意 かの視点で評価。 経営に有効に展開で 標達成に向けた取													
			授業の計	·画(授業	炎の回数やス ク	ケジュー	ル)								
口			内	容			叚	間		備考					
1	卒業論式	女の進め方 (オリエンテー	ション)				1							
$2\sim5$	テーマの	り設定と研究	内容の検討					4							
$6 \sim 4 \ 0$	研究内容	字に沿った実	践・調査					35							
$4~0 \sim 5~0$	データの	つ分析・検討						10							
5 1 ~ 6 0	卒業論文	文としてのま	とめ					10							
授業時間外に 必要な学修	特になし	,						I							
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則とし		補講は行わな	いが、朱	寺別な事情が	—- ある場合	は時間外に		認める。						

				介	和2年度	授業	計画書[氵	ノラバス	ス]					
科目名	M20)4- 7		卒業	論文	学科名	農学科 畜産学科	学年	6	2年	学其	月	後期	
授業の方法		演習		区分	必修	単位数	4	時間数		60	開講時	持期	10月~1月	
科目の概要							o設定し、テ i i i i i i i i i i i i i i i i i i i				証等の	研究	を行うと共にプ	
講師名					ネス専攻 教 ネス専攻 主		松葉 久美 今吉 里華				経験のよる授			
到達目標	解決に向けた一連のスキルを習得することを到達目標とします。													
使用教材 フードビジネス専攻で配布された資料、各自テーマに沿った図書や文献等														
	方 課題設定 (10点) 実施内容 (20点) データ整理 (20点) 論点整理 (20点) 自主的取組 (30点) 法 課題の背景が敷 課題記字 とまた内容 調本データが記録と 調本注目のまとめ 課題記字 かく 診点													
成績評価	法 課題の作品が 実施内存 (20点) ブーグ整理 (20点) 調点整理 (20点) 目主的収組 (30点) 課題の背景が整 課題設定と実施内容 調査データが記録さ 調査結果やまとめ、 課題設定から論点 理されているか の整合性がとれてい れ、データの分析が 残された課題など論 整理まで自主的・													
					授業の計	·画(授業	きの回数やスク	ケジュー	ル)					
□					内	容				時間			備考	
	調査調査プロ	Eまと Eおよ	: め・ : び事 : クー	・研究方法 実証 、活動の	こ関する基礎 法の確定 発表	調査				6 3 31 10 10				
										60				
授業時間外に 必要な学修	日頃から、自身の研究に関連する情報について、図書や統計データ等、調査事例や卒業論文などについ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で													
再試験及び補 習対象の実施 基準	補講	きや再	「試験	食は実施	しない。									

			4	介和2年度	授	業	計画書[氵	ンラバ ス	۲]					
科目名	M205 海外農業研修 学科名 全学科 学年 2年 学期 実習 区分 一般 単位数 2 時間数 60 開講時期											後期		
授業の方法	実習	1	区分	一般	単位	数	2	時間数	60		開講時期	1月		
科目の概要	海外での	りファ	ァームス・	テイや産地視	察、沒	流通	通視察を通し`	て海外の	農業の実	態や	経営につい	て学ぶ。		
講師名	学科担当	当職員	į								経験のある。			
到達目標	研修を追	通じて	て海外の	農業経営につ	いてき	学ひ	ド、国際感覚・	やグロー	バルな視	点を	・身につける。			
使用教材	研修のし	_ン おり)											
	方法	研	修報告書	(70点)			出席率(30点)			学習態度	度(減点)		
成績評価	基 ・ 連 ・ A E	・提出 提出あり:40点 提出なし:0点 ・内容 A(良い)40点 B(普通)20点 C(悪い)10点 出席率に応じた係数を乗じた点 数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 講義中の態度、提出物により 30点を上限として除する。 ・90%以上90%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0												
		授業の計画(授業の回数やスケジュール)												
回				内	容	:				時間		備考		
1	事前指導	拿①	研修目	的 研修内容	等					1				
2	事前指導	享②	研修目	的 視察先	ファー	ーひ	ステイでの	過ごし方		1				
3	事前指導			的 研修準備						1				
4~60	海外研修	多 ニ	ニュージ	ーランドオー	-クラ:	ント	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			57				
授業時間外に 必要な学修	研修報告	5作6	戈											
再試験及び補 習対象の実施 基準	やむを往	导ない	・事情に	―― より海外農業	で でんしゅう かいまい かいまい かいまい かいしん かいしん はいま はい かいしん かいしん いいま かいまい かいしん いいまい かいしん いっぱい かいしん いっぱい かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん しんしん しん	こ参	分加できない	 場合						

			令	和2年度	授	業計画書 [シラバ	ス]				
科目名			農政施策		学科名	名 農学科	学年	2年	Ë :	学期	後期	
授業の方法	111111111111111111111111111111111111111	講義	区分	一般	単位数	数 1	時間数	15	開	講時期	10月~11月	
科目の概要	• 農	産物の理	見状と課題	 重、主要施策	等につ	いて広く学習で	する。					
講師名	農	政企画談	果担当者、	農産園芸課	担当者	、JA宮崎経済i	連担当者		実務経験による授		員等	
到達目標	・本	県農産物	めの現状?	を知り、生産	振興方	策や各種補助	事業等を理	里解する	5.		-	
使用教材	• 講	師作成資	資料									
	方法	試験等を	知識(ご	7 0点) 理解度を評	価 受	学習態度		·評		出席率(応じた係	10点) 数を乗じた点数	
成績評価		する。			佃 A 受 B く C		持って積極 0点) ≥かけるこ (10点) マホ操作等	的に とな によ	とする。 ・95%以上 ・90%以上 ・80%以上 ・70%以上 ・70%未溜	: :95%未満 :90%未満 :80%未満	1. 0 0. 9 0. 8	
				授業の計	·画(授	受業の回数やス	ケジュー	ル)				
П				内	容			時間			備考	
1 2	世界总試験の		、宮崎県	における農産物	勿の現場	犬と課題		10:	10/14 00-12:10	農政企画課 農政計画担当		
3 4	穀類		勢及び主	要施策				10:	10/21 00-12:10		農産園芸課 作物担当	
5 6	野菜		勢及び主	要施策				10:	10/28 00-12:10	<u>ا</u>	農産園芸課 野菜担当	
7 8	花き 試験(勢及び主	要施策				10:	11/4 00-12:10		農産園芸課 花き担当	
9	茶関(及び主要	施策				10:	11/11 00-12:10		農産園芸課 特用担当	
11 12	果樹		勢及び主	要施策				10:	11/18 00-12:10		農産園芸課 果樹担当	
13 14 15		取引の方	向につい 法と機能	て ・販売形態に [、]	ついて			8:	11/19 50-12:10		宮崎経済連 販売担当	
授業時間外に 必要な学修	特に	なし						1		1		
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	原則として、再試・補習は実施しない。										

			令	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	₹]				
科目名	M206- 畜	-	農政	施策	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前・後期	
授業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	6月~11月	
科目の概要	畜産	の現場	犬と課題、	主要施策及	び関係治	去規、制度に	ついて広	く学習する	5.			
講師名	6)、	酪農	・中小家	畜振興担当	$(7 \sim 9)$	3) 、肉用牛) 、畜産経営 津子(13~	営支援担当	: (10 =		険のある。 る授業科		
到達目標	 全国 	及び領	宮崎の畜産	童の現状とそ する知識を習	の施策を		,	•				
使用教材	講師	i作成資	資料									
	方法		知識(9			出席率				学習態度		
成績評価	基準		実施 し、理	里解度を評価	数と ・9: ・9: ・8:	野率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8		講義中 <i>0</i> 20点を』	の態度、抗 上限とし、	提出物により て除する。	
				授業の計	画(授業	美の回数やス	ケジュー	ル)				
□		は「	家畜人工技	内 受精に関する詞	容 舞習」(E	国)の科目名及	び内容	F	寺間	備考		
1	世界及	び日本	における音	香産の現状と 調	見題							
2	宮崎県	におけ	る畜産の野	見状と課題					0/15 ~12:10		師:畜産振興語 新生企画担当	
3	酪農及	び肉用	牛生産振興	基法、家畜商法	:、家畜耶	双引法 試験	<u>(1)</u>			II /II	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
4	肉用牛	情勢										
5	肉用牛	関係主	要施策						0/19 ~12:10		師:畜産振興]牛振興担当	
6	肉用牛	関係価	格安定制度	と キトレーサ	-ビリティ	制度 試験	(2)					
7	酪農・	養豚・	養鶏情勢							坦玉葉	師:畜産振興	
8	酪農・	養豚・	養鶏関係	上要施策					1/5 ~12:10		中小家畜振興	
9	酪農・	養豚・	養鶏関係信	西格安定制度		試験	(3)				当	
10	飼料情	勢										
11	飼料・	家畜排	せつ物関係	系主要施策					0/23 ~12:10		師:畜産振興 経営支援担当	
12	飼料関	係価格	安定制度、	飼料安全法、	家畜排せ	こつ物法 試験	(4)			<u></u>		
13			の制度と関 家畜改良地	関係法規 関殖法、家畜伝達	杂病予防 法	、獣医師法						
14	家畜人	工授精	の制度と関						/19 ~12:10	担当	6講師:谷口	
15	家畜人	工授精	の制度と関			試験	(5)					
受業時間外に 必要な学修	特にな		7 4 2 2 2 1			- Pro- Common C. Decay		•				
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	してき	実施しない	いが、特別な	事情があ	ある場合は申	し出るこ	と。その行	後別途道	通知する。		

			수	和2年度	授業	計画書[シラバス	ス]					
科目名	S201		英語特別	川講義Ⅲ	学科名	全学科	学年	2年		学期	前期		
授業の方法	講	義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開	講時期	4月~		
斗目の概要	英文語	を解、 ラ	和文英訳、	時事英語な	ど英語の	の理解を深め	、編入学	試験に対	応した	英語力を身	かにつける。		
講師名	内藤直	〔美								験のある教 る授業科目			
到達目標	4年制	小大学	編入学試	験に対応でき	る英語	力を身につけ	る。英検	2級合格	を目指す	す			
使用教材	講師が	ぶ準備	した資料										
	方法	法											
成績評価		試験を実施し、理解度を評価す る。											
				授業の計	一画(授美	業の回数やス	ケジュー	ル)					
口				内	容				時間		備考		
1	英文語	を解、 ラ	和文英訳、	時事英語					1	4/1	14 2限目		
2	英文語	を解、 ラ	和文英訳、	時事英語					1	4/1	14 3限目		
3	英文語	を解 、	和文英訳、	時事英語					1	4/2	21 2限目		
4				時事英語					1	4/2			
5				時事英語					1	4/2	28 2限目		
6	英文語	·解、	和文英訳、	時事英語					1	4/2	.,,,,,		
7				時事英語					1	5/1			
8				時事英語					1	5/	.,,,,,		
9				時事英語					1	5/1			
10				時事英語					1	5/	*****		
11	, 4 , .,,		, .,	時事英語					1	5/2	.,,,,,		
12			-	時事英語					1	5/2			
13				時事英語					1		2 2限目		
14 15	英文語 試験	7月4、	和又英訳、	時事英語					1	6/	2 3限目9 3限目		
受業時間外に 必要な学修 再試験及び補	講義別講義系	冬了時	期に英検	英検準2級合 2級合格を目 いが、特別な	指す。		l 出る ~	ト その			9		

			수	和2年度	授業	計画書[シラバス	۲]				
科目名	S2	02	就職対	対策Ⅱ	学科名	全学科	学年	2年		学期	前期	
授業の方法		講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開	講時期	4月~6月	
科目の概要	就暗	は試験に.	おいて必ら	要となる一般	常識に	ついて学ぶ。			•	•		
講師名	磯野	下正子								のある勢 対 授業科目		
到達目標	就職	は試験に	対応でき	る社会一般常	で識を身に	こつける						
使用教材	SPI	対策問題	1集、講師	「が準備した」	資料							
	方法 知識(90点) 出席率(10点) 学習態度(減点) 試験を実施し、理解度を評価する出席率に応じた係数を乗じた点。 講義中の能度、提出物に											
成績評価	基準											
				授業の計	·画(授)	業の回数やス	ケジュー	ル)				
П				内	容			I	時間		備考	
1	就職	試験の	ための社会	会一般常識①)				1	4/1	14 2限目	
2	就職	試験の	ための社会	会一般常識②)				1	4/1	14 3限目	
3	就職	試験の	ための社会	会一般常識③)				1	4/2	21 2限目	
4				会一般常識④					1	4/2		
5				会一般常識⑤					1		28 2限目	
6				会一般常識⑥					1	4/2	** *	
7				会一般常識(7					1	5/1		
8				会一般常識®					1	5/1		
9				会一般常識⑨ 会一般常識⑩					1	5/1 5/1	** *	
10				会一般常識(1)					1	-,		
11				会一般常識(12 会一般常識(12					1	5/2 5/2	** *	
13	140 117			会一般常識(3					1		2 2限目	
14				会一般常識(4)					1	6/		
15	試験		. / . / L.		•				1	6/		
授業時間外に 必要な学修 再試験及び補 習対象の実施 基準	原則]として;	実施しない	ハが、特別な	き事情がる	ある場合は申	し出るこ	と。その	後別途通	色知する。		

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス]			
科目名	S203	植物	がイオラ	テクノロジー	学科名	全学科	学年	2年		学期	前期
授業の方法	講身	TE STATE OF THE ST	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開	講時期	6月~7月
科目の概要			オテクノ こついて ^を		と組織は	音養や植物組	織の観察等	F、講義	と実験・	• 演習を約	組み合わせて農
講師名	バイオ	テクノ	ノロジー	支術指導員	阿久根剂	台喜				険のあるま る授業科	
到達目標				の農業、特に 設備の実際、							せる。
使用教材	講師準備	備資料	斗・植物	才料・実験施	設設備・	・実験器具・	実験機器・	試薬他			
	方法		知識(?				(10点)			学習態度	
成績評価	基準		実施し、 野	里解度を評価	数と ・9 ・9 ・8 ・7	書率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8				是出物により て除する。
				授業の計	·画(授第	美の回数やス	ケジュール	·)			
口				内	容			ß	寺間		備考
1	実験器			・設備類の操 音地・H培地					1 2		
2			無菌操作(オーキッ	の基本 ドの継代培養	<u> </u>				3		
3	実体顕征	微鏡の	の使い方						1	場所:生 服装:自	E物工学実験室
3	茎頂培養	養 フ	カーネー:	ションの茎頂	培養				2	資料:請	5. 表師準備
4	メロン(の不気	它胚誘導。	と観葉植物の	葉片培養	长			3		
5	苗の順位	'比:	カンショ	・ラン・キン	ノカンの	順化及び鉢			2		
	評価試	験							1	1	
授業時間外に 必要な学修	○講義	資料の	の復習と何	あることから 呆管に取り組 を持ち込まな	む。			⁻ る。(:	公欠・狙	病欠は除 々	<)
再試験及び補 習対象の実施 基準	○管理	軍営勇	要領の特別	別な事情に当	たる場合	合以外、原則	として再詞	【験は実	施しない	· \ ₀	

			令	和2年度	授業	禁計画書[シラバス	ス]				
科目名	S20	4 微生	三物活用		学科名	全学科	学年	2年		学期	前期	
授業の方法	##	構義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	阱	講時期	4月~5月	
科目の概要	植物 カニ	のバイス ズムの	ナテクノロ 基礎・基準	ュジーの基礎 本を習得し、	と組織:農大農	培養や植物組 場生産物を使	織の実験[い、微生	を通し、物を活用	雑菌・組	殺菌・滅菌 品の加工を	菌の重要性やメ と学ぶ。	
講師名	バイ	オテク	ノロジー <u>打</u>	技術指導員	阿久根	治喜				験のある勃 る授業科目		
到達目標						、種類を理解 品製造を習得						
使用教材	講師	準備資料	斗・植物村	才料・実験施	設設備	・実験器具・	実験機器	・試薬他				
	方法 知識(90点) 出席率(10点) 学習態度(減点) 試験を実施し、理解度を評価す 出席率に応じた係数を乗じた点 講義中の態度、提出物により											
成績評価	る。 数とする。 20点を上限として除する。											
				授業の計	画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)				
口				内	容			F	寺間		備考	
1				操作方法 手 ・H培地・YE ^は		浄			1		工学実験室	
_				(オートクレ		働き・操作)			2	() () ()	イオ実験室)	
			食品(講	隻)					1	生物	工学実験室	
2		づくり	2-11 × ·	* 、イルツ					2	/ L. d./	調理室	
	,,,,,,		/ リーン/ ±込み	ベンチ作業)					1	生物	工学実験室 調理室	
3			上之。//						1	生物		
Ü	> 471111	-,,,	 式飲・食児	未確認					2	11/1	調理室	
	納豆	作りと鳥	農大牛乳	を使ったカス	ピ海ヨ	ーグルト作り			1		調理室	
4	天然	酵母を値	吏ったパン	/作り					2		加工室	
5	試食	・食味	検査 (納 <u>·</u>	豆、ヨーグル	・ ト、天	然酵母を使っ	たパン)		2		調理室	
	評価	試験							1	生物	工学実験室	
授業時間外に 必要な学修	○講:	義資料の	の復習と何	呆管に取り組	む。	を受講する事切で清潔な服			公欠・兆	病欠は除ぐ	ζ)	
再試験及び補 習対象の実施 基準												

		ŕ	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ξ]						
科目名	S205	商業簿記		学科名	全学科	学年	2年	2	学期	前期			
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開記	講時期	4月			
科目の概要			借対照表・損 簿記の一連の			成、帳簿	と仕分け	、減価償	却と計算	法、試算表と			
講師名	秋吉 佸.	氏							のある教授業科目				
到達目標	日商簿記	3級取得を	目指す										
使用教材		定する教材											
	方法 34%	法											
成績評価	基準	る。 数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0											
			授業の計	画(授第	美の回数やス	ケジュー)	ル)						
回			内	容			E	時間		備考			
1,2	簿記の意	義、記帳か	ら決算までの	流れ				2	4/22	2,3限目			
3, 4	貸借対照	表の意味と	構成					2	4/24	2,3限目			
5, 6	損益計算	書の意味と	構成					2	5/8	2,3限目			
7,8	取引と勘:	定、帳簿						2		2,3限目			
9, 10	仕訳							2		2,3限目			
11, 12	// //	/ 						2	5/20	, ,,,,,,			
13, 14	資産、負	賃、貸 本						2	5/22	* ** *			
15, 16	川田光)。曹	H						2	5/27	, ,,,,,,			
17, 18 19, 20	収益と費	/II						2	5/29 6/3	, ,,,,,,			
21, 22	<i>''</i>							2	6/4				
23, 24	" 決算書作	ь С						2	6/4				
25, 26		_匹 問題の実施	および解説					2	6/10				
27, 28	世紀 四五	四座ッ大心・	いっち 〇 万千0元					2	6/11				
29, 30		去問題の実	施および解説	・試験				2	6/12				
	講義の予 ^注 講師から	習、復習 出される課	題										
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。												

		ŕ	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	k]			
科目名	S206 会	社経営		学科名	全学科 7-1、以外	学年	2年		学期	前期後期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	ß	涓講時期	4月~1月
科目の概要	学生出資会	社を教材	に、会社経営	計画や則	反売計画など	を学ぶ。				
講師名	畜産学科	フードビ	ジネス専攻	主任技師	市 今吉里華				験のある勃 る授業科	
到達目標	○会社経営 ○学生出資	に関する 会社の運	基礎知識を身 営及び経理に	につける ついて理	う。 里解する。					
使用教材	講師準備資	料								
成績評価	見交換	会を行う。	9 0 点) 重営に関する とともに、レ て提出させる	数と ・9: ・9: ・8:	出席率(野率に応じた・ 2 する。 5%以上 0%以上95%未) 0%以上90%未) 0%以上80%未 0%未満	係数を乗り 1.0 満 0.9 満 0.8	じた点	授業中 20点を	学習態度 の態度、打 上限とし	是出物により
			授業の計	画(授業	きの回数やス.	ケジューバ	ル)		1	
口			内	容				時間		備考
1~6	学生出資会	社に関す	る各組織ごと	の運営力	万法の研究			6		
7 ~ 12	学生出資会	社に関す	る各組織ごと	の運営力	が法の実践			6		
13~18	学生出資会	社に関す	る各組織ごと	の運営制	犬況の中間報	生		6		
19~24	学生出資会	社の新役	員体制つくり	(1年	=生への引き	継ぎ)		6		
25~30	学生出資会	社の新役	員体制つくり	(1年	=生への引き	 継ぎ)		6		
授業時間外に 必要な学修	特になし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則して再	試、補講	は認めない。							

			令	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]					
科目名	S20)7	教育	実習	学科名	全学科	学年	2年		学期		前期	
授業の方法	VIIV.	実習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開	講時期		6月	
科目の概要	農業	高校の	農場実習	助手の実習							•		
講師名	県内	の農業	高校							険のある。 る授業科		0	
到達目標	農業	高校の	農場実習」	助手としての	心構え、	実務の概要を	を身につい	ナる			•		
使用教材	各	指導者	が準備する	る資料等									
	方法		5日誌(20		开修報告書	小 (30点)		評価書(3			席(2		
成績評価	基準												
				授業の記	十画(授業	美の回数やス/	ケジュー	ル)					
□				内	容				時間		備	考	
1日日 ~ 3日日				こついて学ぶ して教科指導		知識や技術を	を学ぶ。	1	8時間				
4日目 ~ 5日目			学、講師領 情報を収録		換をとお	らして、農場家	実習の実績	·	2時間	る職員に	こ限定	義形式で	
6 日目 ~ 10日目			師等との ウを会得 [・]		おして、	農業教育・鳥	農場実習の	3	0 時間				
授業時間外に必要な学修	研	修日誌(の記入及で	び研修報告書	で作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原 る。	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知す 5。											

			수	ì和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]		
科目名	A201	事习	文実習(農	学)	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実	習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月~12月
科目の概要	 各專 	厚攻に は	おいて栽	音する品目の	対培技術	fの習得、各目	自のプロ?	ジェクト学習	に取り組む。	,
講師名	農業	美大学村	交指導職」	Ę						
到達目標	各專	厚 攻にお	おいて栽	音する品目の)栽培技術	で習得する	とともに、	各自のプロ	ジェクト品	目を選定する。
使用教材	講師	币準備資	資料							
	方法		能(40)			(40点)		率 (20点)		習態度(減点)
成績評価	生しク組	E理生態 ノ、栽培 ノト学習	態的特性を 音管理と 習に積極的 いるかを	プロジェ 的に取り	即の採点に	(IS)	じた ・95%以 ・90%以	点数とする。 上 上95%未満 上90%未満		の態度、提出物 20点を上限とし る。
	1			授業の	計画(授業	美の回数やス-	ケジュー	ルレ)	,	
回				内	容			時間]	備考
通年	各自の)プロ:	ジェクト	目の栽培技術 学習品目の選 学習品目の調	選定と生産	技術の習得		450		
授業時間外に 必要な学修	実習日	目誌の抗	是出							
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則須	医施 した								

			수	和2年原	臣 授業	計画書[:	シラバン	ス]					
科目名	A202	時間	引外実習		学科名	農学科	学年	2年		学期	前	前・後期	
授業の方法	実習	Z E	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開	講時期	4	月~10月	
科目の概要	・各専	攻には	おいて栽培	培する品目	の栽培技術	うと鮮度保持	支術、出荷	苛調整 に	ついて学	:£;°			
講師名	農業	大学村	交指導職」	Ę						検のある教 る授業科目			
到達目標	・各専	攻には	おいて栽培	培する品目	の栽培技術	fを習得する。	とともに、	出荷調	整技術を	習得する	0		
使用教材	講師	準備資	資料										
	方法		畿(40 ,			r (40点)		率(20		. ,		E(減点)	
成績評価	生し、ク組	理生態 . 栽培 ト学 ³	態的特性を 音管理と 習に積極的 いるかを	プロジェ	に応じた係 点数とす (上 (上95%未) (上90%未) 満	る。 1.0 満 0.9							
		授業の計画(授業の回数やスケジュール)											
回				内	容				時間		備	考	
通年	各品目	に応し		目の生産技技術の習得	術の習得				120				
授業時間外に 必要な学修	実習日	誌の抗	是出										
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則実	施した	えい 。										

			弇	·和2年度	授訓	業計画書 [シラバス	₹]			
科目名	A20)3 作	物の栽培管	 章理	学科名	名 農学科	学年	2年	₫.	学期	前期
授業の方法	# P	講義	区分	必修	単位数	数 1	時間数	15		開講時期	4月~7月
科目の概要						性と栽培技術の 推草防除、病害!				中心に学修す	-る。ロ
講師名	農	業大学	校指導職」	員						系経験のある教 よる授業科目	
到達目標					菜の特	持性と栽培技術(の理論を習	得する	。 🗆		
使用教材	作!	物の病	図鑑(全	農文教) (農文教) 国農村教育協	会)	_	_			_	
	方法		知識(9 0 点)		出席率	(10点)			学習態度	 隻(減点)
成績評価	Ē	試験を含	実施し、5	理解度を評価	数 • •	出席率に応じた 枚とする。 ・95%以上 ・90%以上95%未: ・80%以上90%未: ・70%以上80%未: ・70%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	ジた点		を中の態度、抗 なを上限として	
				授業の計	一一	受業の回数やス	ケジューバ	レ)			
口				内	容				時間		備考
1				選定した品目					1		
2						質、防除方法ほど	か)	\perp	1		
3				草防除(除草					1		
4						ラ気と防除方法) ミホト は吹かさは)			1		
5	. ,					「虫と防除方法)		_	1		
6	. ,			進的な技術と 法、病害虫ほ		(ICT技術、紅		7)	1		
7 8				伝、納書虫は方法、病害虫		-1447)		+	1	_	
9				ガ伝、州音玉 <u></u> 選定した品目	•	•		+	1		
10			栽培管理		- 124· H	. H ~ L		+	1		
11			栽培管理				 		1	$\overline{}$	
12	-		栽培管理					+	1	$\overline{}$	
13	露地	野菜の	栽培管理						1		
14	プロ	ジェク	ト学習に	選定した品目	の栽培	 f管理			1		
15	試験								1		
授業時間外に 必要な学修	特に	なし。						•			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原	則とし	て実施し	ないが、特別	な事情	_ず のある場合は	レポート作	『成とす	`る。		

			수	和2年度	授	業計画書 [シラバ	ス]			
科目名	A20	04	施設野菜の	の栽培管理	学科	名 農学科	学年	2年		学期	前期
授業の方法	i	講義	区分	必修	単位	数 1	時間数	15		開講時期	4月~7月
科目の概要	・プ	ロジェク	ゥト学習(こ選定した品	目の栽	冶管理	•	•		'	
講師名	農	業大学	交指導職」							経験のある教 こる授業科目	
到達目標	・県	内で栽培	音されてい	ハる施設果菜	類の栽	対培に関する知	識を習得	し、専攻	実習で	実践できる	ようにする。
使用教材	講	師準備資	資料								
	方法		知識((10点)			学習態度	E(減点)
成績評価		試験を る。	実施 し、ま	理解度を評価	娄•	出席率に応じた 女とする。 95%以上 90%以上95%末 80%以上90%末 70%以上80%末 70%末満	1.0 満 0.9 満 0.8			□の態度、携 と上限として	是出物により に除する。
				授業の計	·画(持	受業の回数やス	ケジュー	ル)			
П				内	容				時間		備考
1	スイ	カの栽却	音管理技術	術とプロジェ	クト学	習成果		1	L 時間		
2				術とプロジェ 。					時間		
3		-		術とプロジェ 術とプロジェ	•				L 時間 L 時間		
5				技術とプロジ					L 時間		
6	キュ	ウリの	战培管理	技術とプロジ	エクト	学習成果]	L 時間		
7	ピー	マンの	战培管理 <u>:</u>	技術とプロジ	エクト	·学習成果]	L 時間		
8	ピー	マンの	战培管理	技術とプロジ	エクト	·学習成果]	[時間		
9				術とプロジェ]	[時間		
10				術とプロジェ 					L時間		
11				おとプロジェ	-	, , , , , , ,			上 時間		
12				術とプロジェ 習成果発表	グト字	省从果			L 時間 L 時間		
13				百成未完衣 習成果発表					L 时间 L 時間		
15	試験		-/ I T	ロ <i>パ</i> ヘハル4X					上時間		
		なし。									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原	則とし [、]	て実施し	ないが、特別	な事情	うがある場合は	レポート(作成とす	る。		

			수	ì和2年度	授	業計画書	[シラバ	ス]			
科目名	A205	花き	ぐの栽培管		学科》	名 農学科	学年	2年	Ē	学期	前期
授業の方法	講	義	区分	必修	単位	数 1	時間数	15		開講時期	4月~7月
科目の概要	・プロ	ジェク	カト学習	に選定した品	目の栽	培管理					
講師名	農業	大学村	交指導職」	<u> </u>						経験のある教	
到達目標	・プロ	ジェク	カト学習り	に選定した品	目の施	ī肥、防除、魚	羊度保持対	策が実践	できる	3.	
使用教材	講師	準備資	資料								
	方法		知識(90点)		出席率	(10点)			学習態度	 (減点)
成績評価	基準	構義ご	とのレポ	一トにより評	发	出席率に応じ タ5%以上 95%以上 90%以上95% 80%以上90% 70%以上80% 70%未満	1.0	じた点		中の態度、抗を上限とし ^っ	
				授業の計	·画(挖	受業の回数や	スケジュー	・ル)			
П				内	容				時間		備考
1	プロジ	エク	卜学習品	目の時期別切	り前と	鮮度保持			1		
2				目の時期別切					1		
3				目の時期別切 					1		
5				ガ伝と堀上、 方法と堀上、					1		
6				方法と堀上、					1		
7	栄養繁	殖品	目の挿し	芽方法と環境	制御				1		
8	栄養繁	殖品	目の挿し	芽方法と環境	制御				1		
9	栄養繁	殖品	目の挿し	芽方法と環境	制御				1		
10				方法と環境制					1		
11	+ //	,		方法と環境制	1124-				1		
12	+ ///	,		方法と環境制 方法と環境制	1124-				1 1		
13	12.4 //		(万伝と環境制 方法と環境制		14 11 12 12 12 1			1		
15	+ ///	,		方法と環境制	1124-				1		
授業時間外に 必要な学修	特にな	し。						1		,	
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	として	て実施し	ないが、特別	な事情	うのある場合に	はレポート	作成とす	`る。		

			수	ì和2年度	授	業計画書	[シラバ	ス]			
科目名	A206	果樹	対の栽培管		学科	名 農学科	学年	2年	Ξ.	学期	前期
授業の方法	講	篗	区分	必修	単位	数 1	時間数	15		開講時期	4月~7月
科目の概要	・プロ	ジェク	ケト学習	に選定した品	目の兼	战培管理					
講師名	農業	大学村	交指導職」	<u> </u>						経験のある教 よる授業科目	
到達目標	・プロ	ジェク	ケト学習(に選定した品	目の旅	施肥、防除、	出荷調整対	策が実践	できる	,	
使用教材	講師	準備資	資料								
	方法		知識(90点)		出席率	(10点)			学習態度	E (減点)
成績評価		義ご	とのレボ	一トにより評		出席率に応じ 数とする。 ・95%以上 ・90%以上95% ・80%以上90% ・70%以上80% ・70%未満	1.0 未満 0.9 未満 0.8	じた点		中の態度、提 を上限として	
				授業の計	·画(抽	受業の回数や	スケジュー	・ル)			
□				内	容				時間		備考
1	果樹に:	おける	る病害虫	管理(総論)					1		
2				技術とプロジ		•			1		
3				技術とプロジ					1		
	-			術とプロジェ					1		
5 6	,			術とプロジェ 術とプロジェ		H / / - 1 ·			1		
7				州とプロジェ 術とプロジェ					1		
8				技術とプロジ					1		
9	きんかん	んの非	北培管理	技術とプロジ	エクト	、学習成果			1		
10	日向夏	の栽地	音管理技術	術とプロジェ	クト学	学習成果			1		
11	日向夏	の栽地	音管理技	術とプロジェ	クト学	学習成果			1		
12	ぶどう	の栽均	音管理技	術とプロジェ	クト学	学習成果			1		
13	ぶどう	の栽地	音管理技	術とプロジェ	クト学	学習成果			1		
14				習成果発表					1		
15 授業時間外に			ェクト学	習成果発表					1		
必要な学修 再試験及び補 習対象の実施 基準	特にな		て実施し	ないが、特別	な事情	青のある場合に	ニ ンポート	作成とす	る。		
本 毕											

			令	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]		
科目名	A2	07	茶の栽	培管理	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法		講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月~9月
科目の概要	• 茶	の栽培管	管理と加工	工技術につい	て学ぶ。					
講師名	総	合農業語	式験場茶	業支場職員					系経験のあるま よる授業科	
到達目標			育理や生う 解させる。		及び病害	手虫の発生調	査等など	を通して、茶	樹の生理生態	態と基本的な栽
使用教材]解 茶点 排師準備資	生産の最 資料	新技術 製造	編					
	方法		知識(9	9 0 点)		出席率	(10点)		学習態度	度(減点)
成績評価		の評価語		了後、100点流 施、得点の90	% 数と ・9。 ・9。 ・8。 ・7。	5率に応じた/ : する。 5%以上 0%以上95%未: 0%以上90%未: 0%以上80%未: 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8		を中の態度、打 なを上限とし [*]	
				授業の計	·画(授業	(の回数やス	ケジュー)	ル)		
口				内	容			時間		備考
1	茶の	生育と刻	茶園管理	スケジュール	,			1	茶業支場	易支場長
2	茶の	育苗・気	定植					1	茶業支場	易育種科
3		幼木管理						1	茶業支場	
4		摘採(複						1		易栽培加工科
5		収量・品						1		易栽培加工科
6		剪枝方法						1		易栽培加工科
7		病害虫(1		易栽培加工科
8		病害虫	_					1		易栽培加工科 B.栽培加工科
9		病害虫(1		易栽培加工科
10		病害虫的病害虫的						1		易栽培加工科 B栽培加工科
12		施肥方法						1		
13		有機栽地						1		
14		防霜対策						1		
15	試験		1-					1	茶業支場	
授業時間外に 必要な学修	特に	こなし						•	•	
再試験及び補 習対象の実施 基準	管理	運営要領	質の特別に	な事情に当た	る場合以	以外、原則と	して再試験	験はしない。		

			令	ì和2年度	授第	美計画書 [:	シラバ	ス]			
科目名	A208	茶の	を歴史・ス	文化	学科名	農学科	学年	2年		学期	前期
授業の方法	講	髮	区分	必修	単位数	½ 1	時間数	15		開講時期	6月~7月
科目の概要	お茶	に関っ	する理解:	を深めるため	、歴史	と文化や生産	・流通・ <i>注</i>	肖費、健	康増進	を学ぶ。	
講師名	総合	農業詞	式験場茶	業支場職員						圣験のある教 よる授業科目	
到達目標	お茶	に関っ	する理解:	を深めるため	、歴史	と文化や生産	・流通・泊	肖費、健	康増進	の知識を習	得させる。
使用教材		茶検5 準備資		キスト日本茶	のすべ	てがわかる本					
	方法		知識(出席率				学習態度	
成績評価	基準		を施 し、ま	里解度を評価	数••••	席率に応じた とする。 95%以上 90%以上95%未 80%以上90%未 70%以上80%未 70%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		中の態度、携 を上限として	を という を を を を を を を を を を を を を を を を を を を
				授業の計	·画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	お茶の	プロ	フィール、	成分、淹れ	方				1	茶業支場	大場長
2	お茶の	健康均	曽進①						1	茶業支場	表場長
3	お茶の	健康均	曽進②						1	茶業支場	表場長
			と文化①						1	茶業支場	
			と文化②						1	茶業支場	
6 7	本県の								1	茶業支場	
•	本県の			流通・消費					1	茶業支場 茶業支場	
9				元通・何負 流通・消費					1	茶業支場	
				流通・消費					1	茶業支場	
	お茶の			1117					1	茶業支場	
12	お茶の	品種育	育成②						1	茶業支場	-
13	お茶の	品種(D						1	茶業支場	計育種科
14	お茶の	品種(2)						1	茶業支場	青種科
15	試験								1	茶業支場	· 支場長
授業時間外に 必要な学修	特にな	L									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して拝	再試験を3	実施しない。							

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	۲]			
科目名	A209	作物	めの流通・	・販売	学科名	農学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	9月~12月
科目の概要	作物	yの流i	・販売に	こついて実践	えい に学る	,,					
講師名			交指導職員 即関係者、	員 - 専門店・量	は販店・直	正売所関係者				経験のある教 よる授業科目	
到達目標				歯の流通動向 や販売店の実				5 .	•		<u> </u>
使用教材	各指	道 導者 7	が準備する	る資料							
	方法	研	修報告書	(90点)		出席率	(10点)			学習態度	 (減点)
成績評価	-14-	提出 ^力 内容 A(B	あり:40, なし: 0, 良い)50, き通)20, 悪い)0,		数 d • 9 • 9 • 8 • 7	雨率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%末 0%以上90%末 0%以上80%末 0%末満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		中の態度、挑を上限として	是出物により て除する。
				授業の記	十画(授)	美の回数やス	ケジュー)	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	国内夕	トの作物	勿の流通	・販売につい	て				1	講義	
2				・販売につい					1	講義	
3				・販売につい	て				1	講義	
4				充通の実際 本送の実際					1	視察研修	
5 6				充通の実際 本語の実際					1	視察研修	
7				流通の実際 売通の実際					$\frac{1}{1}$	視察研修	
8				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
9				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
10			の実際						1	視察研修	
11	作物の)販売(の実際						1	視察研修	<u> </u>
12	作物の)販売(の実際						1	視察研修	<u> </u>
13	作物の)販売(の実際						1	視察研修	Ķ.
14	作物の	販売の	の実際						1	視察研修	ķ
15	作物の	販売の	の実際						1	視察研修	<u> </u>
受業時間外に 必要な学修	研修幸	会告書の	の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	: してき	実施しない	ハが、特別な	き事情のあ	っる場合はレ	ポート作品	なとする 。	0		

			יד	和2年度	汉禾	n 岡音 L	<i> </i>	√ 1	ı		
科目名	A210	施討	と野菜の 🤊	流通・販売	学科名	農学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	9月~12月
斗目の概要	 野菜 	の流i	通・販売!	こついて実践	的に学ぶ	•			.		
講師名			交指導職員 印関係者、	員 専門店・量	飯店・直	売所関係者				経験のある勃 よる授業科目	
到達目標				菜の流通動向 や販売店の実				5 .			•
使用教材	各指	導者 /	が準備する	る資料							
	方法	研	修報告書	(90点)		出席率	(10点)			学習態度	ま (減点)
成績評価	基 *	提出 ⁷ 内容 A(B B(智	59:40点 よし: 0点 まい) 50点 き通) 20点 悪い) 0点	Ā Ā	数と ・9: ・9: ・8:	『李に応じた ○ する。 ○ 5%以上 ○ 0%以上95%末 ○ 0%以上90%末 ○ 0%末満	1.0 満 0.9 満 0.8	ごた点		中の態度、抗 を上限として	是出物により で除する。
				授業の計	十画(授業	(の回数やス	ケジュー	シレ)			
П				内	容				時間		備考
1	国内外	の野乳	菜の流通	・販売につい	て				1	講義	
2				・販売につい					1	講義	
3				・販売につい	て				1	講義	
4				流通の実際 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・					1	視察研修	
5				充通の実際 なるの実際					1	視察研修	
6				充通の実際					1	視察研修	
7 8				流通の実際 流通の実際					$\frac{1}{1}$	視察研修	
9				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
10	野菜の			10.22 10.70					1	視察研修	
11	野菜の								1	視察研修	
12	野菜の	販売の	の実際						1	視察研修	<u> </u>
13	野菜の	販売の	の実際						1	視察研修	<u> </u>
14	野菜の	販売の	の実際						1	視察研修	<u></u>
15	野菜の	販売の	の実際						1	視察研修	<u> </u>
受業時間外に 必要な学修	研修報	告書の	の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して気	実施しない	いが、特別な	事情のあ	る場合はレ	ポート作品	戈とする。	o		

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	۲]			
科目名	A211	花き	・の流通・	販売	学科名	農学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	9月~12月
科目の概要	・花き	きの流i	通・販売に	こついて実践	的に学ぶ	```	-				
講師名			交指導職員 印関係者、	専門店・量	:販店・直	売所関係者				経験のある教 よる授業科目	
到達目標				きの流通動向 や販売店の実				5.			
使用教材	各打	旨導者才	が準備する	る資料							
	方法	研	修報告書	(90点)		出席率	(10点)			学習態度	 (減点)
成績評価		提出 内容 A(E	5り:40点 まし: 0点 臭い)50点 楽通)20点 悪い) 0点	Ā Ā	数と ・9。 ・9。 ・8。	5率に応じた : する。 5%以上 5%以上 90%以上95%末 90%以上90%末 90%末満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		中の態度、抗 を上限として	是出物により て除する。
				授業の記	十画(授業	炎の回数やス	ケジュー	ル)			
П				内	容				時間		備考
1	国内タ	トの花を	きの流通	・販売につい	て				1	講義	
2				・販売につい					1	講義	
3				・販売につい	て				1	講義	
4				充通の実際 なるの実際					1	視察研修	
5				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
6 7				に通の実際 充通の実際					1 1	視察研修	
8				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
9				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
10		り販売の							1	視察研修	
11	花きの	り販売の	の実際						1	視察研修	Ę.
12	花きの	り販売の	の実際						1	視察研修	Ķ.
13	花きの	り販売の	の実際						1	視察研修	Ç.
14	花きの	り販売の	り実際						1	視察研修	
15	花きの	り販売の	の実際						1	視察研修	<u> </u>
受業時間外に 必要な学修	研修幸	服告書の	の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	こして気	実施しない	いが、特別な	事情のあ	る場合はレ	ポート作品	式とする。	0		

			令 ———	和2年度	授業 ———	計画書 [シラバス	く] 			
科目名	A212	果樹	ずの流通・	販売	学科名	農学科	学年	2年		学期	後期
受業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	ŀ	開講時期	9月~12月
斗目の概要	・果様	か流記	・販売に	こついて実践	的に学ぶ	``````````````````````````````````````				· ·	
講師名			交指導職員 即関係者、	員 専門店・量	販店・直	売所関係者				験のある教 る授業科目	
到達目標				歯の流通動向 や販売店の実							,
使用教材	各指	導者	が準備する	る資料							
	方法	研	修報告書	(90点)		出席率	(10点)			学習態度	(減点)
成績評価	444	提出 内容 A(B(あり:40点 まし:0点 良い)50点 き通)20点	i i	数と ・9: ・9: ・8:	秀率に応じた : する。 : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8			の態度、携 上限として	≹出物により 「除する。
				授業の計	十画(授業	炎の回数やス	ケジューノ	レ)			
口				内	容			ŀ	時間		備考
1				・販売につい					1	講義	
2				・販売につい					1	講義	
3				・販売につい	て				1	講義 視察研修	_
5				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
6				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
7				流通の実際 流通の実際					1	視察研修	
8				流通の実際					1	視察研修	
9				流通の実際					1	視察研修	
10	果樹の	販売の	の実際						1	視察研修	
11	果樹の	販売の	の実際						1	視察研修	:
12	果樹の	販売の	の実際						1	視察研修	
13	果樹の								1	視察研修	
14	果樹の								1	視察研修	
15	果樹の)販売(の実際						1	視察研修	:
授業時間外に 必要な学修	研修報	と告書の	の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	こしてき	実施しない	いが、特別な	:事情のあ	る場合はレ	ポート作成	えとする。			

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	۲]			
科目名	A213	茶の)流通・則	反壳	学科名	農学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	講	義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	9月~12月
斗目の概要	·茶0)流通	・販売に~	ついて実践的	に学ぶ。		-				
講師名			交指導職員 印関係者、	員 専門店・量	:販店・直	正売所関係者				経験のある教 よる授業科目	
到達目標				の流通動向及							
使用教材	各指	道 導者 2	が準備する	る資料							
	方法	研	修報告書	(90点)		出席率	(10点)			学習態度	E (減点)
成績評価		提出 ^为 内容 A(B B(音	あり:40点 はし: 0点 臭い)50点 蜂通)20点 悪い) 0点	Ā Ā	数 ? • 9 • 9 • 8 • 7	秀率に応じた : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		中の態度、抗 を上限として	是出物により て除する。
				授業の計	十画(授美	美の回数やス	ケジュー)	シレ)			
口				内	容				時間		備考
1				反売について					1	講義	
2				反売について					1	講義	
3				反売について	•				1	講義	
4				た の 実際					1	視察研修	
5 6				充通の実際 を通の実際					1	視察研修	
7				充通の実際充通の実際					$\frac{1}{1}$	視察研修	
8				に通り天際 充通の実際					1	視察研修	
9				で通り 実際 () () () () () () () () () (1	視察研修	
10		 反売の9							1	視察研修	
11	茶の則	反売の領	実際						1	視察研修	<u> </u>
12	茶の則	反売の領	実際						1	視察研修	ç
13	茶の則	反売の領	実際						1	視察研修	Ş
14	茶の則	反売の領	実際						1	視察研修	Ç
15	茶の則	反売の 🤄	実際		_				1	視察研修	<u> </u>
受業時間外に 必要な学修	研修幸	8告書の	の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	こしてき	実施しない	いが、特別な	事情のあ	る場合はレ	ポート作品	戈とする。	o		

			令	和2年度	授第	計画書[シラバス	ス]			
科目名	A21	4 経	営コンサ	ルティング	学科名	農学科	学年	2年	Ē	学期	後期
授業の方法	詩	構義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	10月~12月
科目の概要	• 経	営コンサ	ナルティン	ノグにおける	基礎的	な知識を学ぶ。	0				
講師名			支援課専F 交指導職員	門技術指導担 員	当					経験のある教 る授業科目	数 員等
到達目標	· 経	営診断号	手法を身に	こつける。							
使用教材	講師3	準備資料	斗、宮崎り	具経営管理指	針 等						
	方法	- 18 1	知識(1 44	学習態度		D 0 EII	ШЬ	出席率	
成績評価		マ価する		状験等を実施	階 A: 取 B:	省に対する。 で評価する。 ・興味関心を持り組んでいる。 ・普通にようる(10点) ・意欲がない(寺って積極 (20点) 通り取り組	返的に	・95% ・90% ・80% ・70%		尚 0.8
				授業の計	·画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	経営	分析とに	は(分析の	の必要性と手	法)				10/13 50-9:		
2	粗収益	益の求め	か方						10/22	2	
3	生産原	原価の刃	∤め方(ネ	重苗費、農薬	費、肥	料費)		10:	00-12	2:10	
4		-		者材料費・小					10/29		
5					衣料費	、保険共済費	、地代)	10:	00-12	2:10	
6								10.	11/5 00-12		
7			ドめ方 ()	人件質)							と業経営支援課 門技術指導担当
9		ア級科の の求めた	り求め方 5						11/13 00-12	2.10	
10			 }析方法					-	11/20	長弟	大学校指導職員
11		全営の記							00-12		
12	個別約	経営の記		営シミュレー	ション				11/24		
13	法人紀	経営の分	分析方法						10-12 11/30		
14				営シミュレー	ション				10-15		
15	まとひ	め							12/10 00-11		
授業時間外に 必要な学修	特にフ	なし						ļ	<u> </u>	·	
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	して再詞	式、補講に	は認めない。							

			令	和2年度	授	業計画書	F [:	シラバス	ス]				
科目名		育種	と知的所	有権	学科》	名 農学	牟科	学年	1年・	2年	学期	1	後期
授業の方法		講義	区分	選択	単位	数 1		時間数	15		開講時	拼	9月~12月
科目の概要				育種ついて学 こついて学ぶ				•		•		•	
講師名	総	合農業詞	式験場 作	物部研究員、	野菜語	部研究員、	花き	部研究員	Į.		経験のあ		
到達目標	農産	物の育種	重方法及で	び品種登録、	種苗法	まについて	理解	する。					
使用教材	• 講	靠師準備資	資料										
	方法	3 N P A >	知識(7					(20点)	. 				[0点)
成績評価	基準	試験を集る。	ぼ施 し、耳	里解度を評価	低 A 受 B く C	受講態度語。 興味でにいる : 興味でにいる : 受講関し : 受講し : 受諸眼している : 講義に : 講義に	心を持 いる(20 迷惑を いる スマ	fって積極)点) かけるこ (10点) rホ操作等	を的に とな によ	とす ・95 ・90 ・80 ・70		統未満 統未満	
				授業の計	·画(授	受業の回数	でやスク	ケジュー	ル)				
口				内	容					時間	1		備考
1 2	新品	1種の作出	日、品種图	登録、種苗法					13:	9/8 10-1	5:20		
3 4	農業	試験場で	で作出され	れた品種と育	成				13:	9/1: 10-1	5 5:20		·農業試験場 き部研究員
5 6	試験								13:	10/0	6 5:20		
7 8	作物	の遺伝と	: 育種、繁	 終殖						10/1 10-1	3 5:20		
9	農業	対験場で	で作出され	れた品種と育	成					11/1 10-1	8 5:20		·農業試験場 物部研究員
11 12	試験	2								11/2 00-1	2:10		
13 14 15				れた品種と育	成				8:	12/′ 50-1:			·農業試験場 菜部研究員
授業時間外に 必要な学修	特に	なし											
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	して再診	式験は実カ	をしない。									

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	.]			
科目名	A2	20 営農	 農計画作成	Ž	学科名	農学科	学年	2年	£ 2	学期	後期
授業の方法		演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	9月~10月
科目の概要				ュジェクトに りな基礎知識		売上や農薬	費などを算	i出し、	、それをも	っとに、自	日分が栽培する
講師名	農	と業大学	交指導職員						実務経験による授業		員等
到達目標	・自	身のプ	コジェク	トにおいて経	営的な勧	見点から営農	計画を作成	する。	,		
使用教材		i準備資料	斗、宮崎リ	具経営管理指	針 等			,			
	方法		知識(9	00点)		出席率((10点)			学習態度	
成績評価	基準	提出 1) 2) 2) 次 (35) 次 A (8) B	すのプロシ 字をまとぬ Ě後に自り	ジェクトの経 か、提出(35点 が栽培した 、計画を作 ご、計画	点 (点 (点 (点) (点) (・9 (・9 (に) (に) (に) (に) (に) (に) (に) (に) (に) (に)	廃率に応じた 数とする。 95%以上 90%以上95%未 30%以上90%未 70%以上80%未 70%未満	1.0 :満 0.9 :満 0.8 :満 0.7 0		授業中の[20点を上]		出物により 除する。
						業の回数やス	ケジュール	/) T			, LL
□ □	까 #	131 aud 14	4>4>14>1-14-1-	内	容				時間 9/2		備考
2			成方法に~ ト内窓の#	oいて <u></u> □握(売上・	叙弗华)			11:	10-12:10	1	
3				三 <u>佐(兄上・</u> 三握(売上・				10:	9/4 00-12:10		
4				世屋(売上・				11.	9/8	1	
5	プロ	ジェク	ト内容のキ	型握(売上・	経費等)				9/15	1	
6				型握(売上・				11:	10-12:10 9/16	-	
7				世屋(売上・				13:	9/16 10-15:20		
8	経営	概要(目標)設定	<u> </u>				11.	10/6 10-12:10	農業力	大学校指導職員
9	経営	概要(目標)設定	Ē					10/13 10-12:10		
10	作付	け計画の	乍成						10/15	1	
11		け計画化						10:	00-12:10		
12		収支作							10/20 00-12:10		
13		収支作								1	
15			戊・営農語	十画作成					10/23 00-12:10		
授業時間外に 必要な学修		なし	/ - 3 -					_1		1	
再試験及び補 習対象の実施 基準											

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	ス]			
科目名			法人経営		学科名	農学科	学年	2年	£ £	学期	前期
授業の方法		講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開記	講時期	6月~9月
科目の概要				・制度につい 法人経営の		学ぶ。	-		!		
講師名	農	農業会議 業法人 業大学	義 交 指導職						実務経験による授業		員等
到達目標	農業		土組みや制		学習する	るとともに、	県内法人∉	つ講義や	や視察研修	を通じて	法人経営への
使用教材	• 請	非師準備資	資料								
	方法		知識(7			学習態度				出席率()	
成績評価		試験・礼評価する		こより理解度	価。 A: 受記 B: くご	構態度をA~C 興味関心を持 構している(2 周囲に迷惑を 受講している 居眠り、スマ 構義に集中し	寺って積極 0点) をかけるこ (10点) マホ操作等	的に とな によ	出席率にル とする。 ・95%以上 ・90%以上 ・80%以上 ・70%以上	.95%未満 .90%未満 .80%未満	
				授業の計	一画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	農業	経営の	去人化とメ	リット					6/19		
2	12-()1		重類と設立					10:	00-12:10		農業会議
3			農業法人の)状況					6/26		杉田氏
4	集 注 影	「営農の酒 食	去人化					10:	00-12:10		
5 6	農業	美法人に は	おける労務	5管理につい	て			10:	7/3 00-12:10	社会仍	保険労務士など (未定)
7 8	法人	、経営の気	実際 (講義	()				10:	7/10 00-12:10	県	内農業法人
9											
10											内農業法人
11	県内	農業法ク	人視察研修	\$				8:	9/11 50-16:30		
13									55	農業力	て学校指導職員
14											
15	まと	:め・レス	ポート					13:	9/18 10-14:10	農業力	、学校指導職員
受業時間外に 必要な学修	特に	こなし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則]して再詞	式験は実施	重しない。							

			4	ì和2年度	授第	 	シラバス	ス]			
科目名	A22:	2	先進農業	事例研究	学科名	名 農学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	涉	習	区分	一般	単位数	文 1 単位	時間数	15時	間	開講時期	9月~12月
科目の概要	〇先泊	進的な	農家、企	業的農家の営	常農や栽	培管理に対す	る取組に	ついて学	:\$.		
講師名	県内名	七進的	農業者、	農業法人等						経験のある。	
到達目標	〇先達	進的な	農業者や	農業法人にお	おける栽	培技術や経営	概況を理	解する。			
使用教材	各指導	算者が	準備する	資料							
	方法		修報告書	(90点)			(10点)			学習態度	
成績評価		提出 ・内容 A(J B(あり:40,なし: 0, なし: 0, 良い)50, 普通)20, 悪い) 0,		数••••••	席率に応じた とする。 95%以上 90%以上95%未 80%以上90%未 70%以上80%未 70%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		:中の態度、1 を上限とし [*]	提出物により て除する。
				授業の計	·画(授	業の回数やス	ケジュー	ル)			
回				内	容				時間		備考
1	先進層	農業事	例研究実施	施における心	構えと	注意事項			1	講義	
2	先進	農業事	例研究実	施における心	構えと	注意事項			1	講義	
3	先進	農業事	例研究実	施における心	構えと	注意事項			1	講義	
4						術や経営への			1	視察研修	
5	県内名	た進的	農業者、	農業法人等の	栽培技	術や経営への	取組を学	ぶ	1	視察研修	<u></u>
6					, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	術や経営への			1	視察研修	
7						術や経営への			1	視察研修	
8	>111 4 2					術や経営への		<u> </u>	1	視察研修	
9					,, H.,	術や経営への 術や経営への	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		1	視察研修	
11					,, H.,	術や経営への			1	視察研修	
12					,, H.,	術や経営への	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		1	視察研修	
13						術や経営への			1	視察研修	
14						術や経営への			1	視察研修	<u>*</u>
15	県内名	先進的	農業者、	農業法人等の	栽培技	術や経営への	取組を学	ぶ	1	視察研修	¥
授業時間外に 必要な学修	研修幸	報告書(の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則。	として	実施しな!	ハが、特別な	き情の	ある場合はレ	ポート作	成とする	0 0		

			令	和2年度	授美	業計画書	シラバ	ス]			
科目名	A223	農業	类指導演 習	я =	学科名	呂 農学科	学年	2年	=	学期	前期·後期
授業の方法	演 ²	N H	区分	一般	単位数	数 1	時間数	15		開講時期	5月~12月
科目の概要	· 2年	生がこ	プロジェ	クト学習に選	定した	品目の栽培管	理につい	て指導で	きるよ	こう演習する	0
講師名	農業	大学村	交指導職」							経験のある よる授業科	
到達目標	· 2年	生がこ	プロジェ	クト学習に選	定した	品目の栽培特	性や栽培	管理を1	年生に	1指導できる	·
使用教材	講師	準備資	資料								
	方法		知識(9 0点)		出席率	(10点)			学習態周	度(減点)
成績評価	プ目にチ	の栽培 適切に エック	音管理を に指導で なし、100	習に選定した 里解し、1年 きているかを 点満点の評価 面点とする。	生 歩・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	開席率に応じた (とする。 95%以上 90%以上95% 80%以上90% 70%以上80% 70%未満	1.0 <満 0.9 <満 0.8	じた点		中の態度、技 を上限とし [・]	是出物により て除する。
				授業の計	一画(授	業の回数やス	スケジュー	ル)			
П				内	容				時間		備考
1	農業指	導演	習方法と	主意事項					1		
2			習方法と注						1		
3						理を1年生に			1		
<u>4</u> 5						理を1年生に理を1年生に			1		
6						理を1年生に	-		1		
7						理を1年生に			1		
8						理を1年生に			1		
9	2年生	がプロ	コジェク	ト選定品目の	栽培管	理を1年生に	指導		1		
10	2年生	がプロ	コジェク	ト選定品目の	栽培管	理を1年生に	.指導		1		
11	2年生	がプロ	コジェク	ト選定品目の	栽培管	理を1年生に	指導		1		
12	2年生	がプロ	コジェク	ト選定品目の	栽培管	理を1年生に	指導		1		
13	2年生	がプロ	コジェク	ト選定品目の	栽培管	理を1年生に	指導		1		
14					栽培管	理を1年生に	指導		1		
15	農業指	導演	習の反省	と助言					1		
授業時間外に 必要な学修	特にな	し。									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	として	て実施し	ないが、特別	な事情	のある場合は	こレポートイ	作成とす	る。		

		4	介和 2 年度	授業	計画書[シラバン	ス]						
科目名	A224	スマート	農業(活用)	学科名	農学科	学年	1年	Ξ .	学期	前期			
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	7月~9月			
科目の概要			状を認識する 取組を学ぶと		経営的な視り	点から技術	野の仕組	1みを学ぶ	0				
講師名		、学講師、農 、学校指導職	業法人経営者 員	、各メー	ーカー担当者、			実務経験等による		員			
到達目標	・メース	カーや農業法	人との連携に	より、ス	スマート農機を	を活用した	:栽培技	支術を習得	する。				
使用教材	・講師準	準備資料											
成績評価	方法 知識(70点) 学習態度(20点) 出席率(10点) 価 各講座ごとにレポートにて理解 度を評価する。 受講態度をA~Cの3段階で評価。 出席率に応じた係数を乗じた点数とする。とする。とする。とする。 基準 B: 興味関心を持って積極的に受講している(20点) B: 周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C: 居眠り、スマホ操作等により、スマホ操作等により、スマホ操作等により、アの%未満のである。での%未満のである。での%未満のである。での%未満のである。での%未満のである。												
	// // // // // // // // // // // // //												
口			内	容				時間		備考			
1 2 3	• I C 7	「技術の進化	と今後の展開 と生活・産業 術の進化によ	面での普		後の展開	8:8	7/2 50-12:10		宮崎大学 退島准教授			
4 5			①農業経営の 農業経営管理				10:	7/9 00-12:10		株式会社 nergy farm			
6 7	・フィー 活用した	-ルドマン(こ農業経営管	②農作業のス 栽培管理シス 理技術 一等大型農機	テム)・	・フィールド	サーバーを		7/16 00-12:10	ジェ	株式会社 イエイフーズ みやざき			
8	・産業月・ドロー	月ドローンの -ンによる農	③農業用ドロ 開発状況と活 薬散布・セン	用事例 シング3	 実演		10:	7/30 00-12:10	農力	校指導職員			
10 11	ロボッ自動運	ット等高性能 運転・精密農	④ロボット等農業機械の開業を支える機	発状況と 構と今後	:活用事例	ハて	10:	9/3 00-12:10	ヤンマ	ーアグリジャパ ン			
12	・ロボット等高性能農業機械の実演 9/10 スマート農業の実践⑤農業用施設の環境制御技術について 9/10 ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果 10:00-12:10												
14	・非破壊専科技術とその効果												
極業時間分に													
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則、第	実施しない。											

				4	和2年	度 授業	計画書[:	シラバス	ス]		
科目名	Z20)1	専攻	実習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	4 2	実習		区分	必修	単位数	14	時間数	420	開講時期	4月~12月
科目の概要	• 各	専攻	別に	家畜の	詞養管理や	や繁殖・肥育	育管理等の実	習を通し	て生産技術や	や経営スキル	ルを学ぶ。
講師名	• 農	業大	学校	で 指導職	員:来間	大志、谷口美	ệ津子、佐藤	登士夫、		務経験のあっ こよる授業を	
到達目標	• 畜	産の	生産	を技術や きんこう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	経営技術を	を習得する。					
使用教材	• 講	師作	成資	籽							
	方法			(40)		技能・技術			率 (20点)		世習態度(減点)
成績評価	甘	管理 ⁽ ジェ)	等の クト り組	に家畜で 実習や2 学習にれ しい評定	プロ 責極的 るかを	講師の採点に		乗じた ・95%以 ・90%以	、上95%未満 、上90%未満		Pの態度、提出物) 20点を上限とし ける。
回 1~60	宏玄	の飼	姜 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	西等	内	容			時間 60	Ī	備 考
61~120	•			理等					60		5月
121~180	家畜	の飼	養管	理等					60		6月
181~240				理等					60		7月
241~260				理等					20		8月
261~320 321~380				理等					60		9月
381~400				理等					20		11月
401~420				理等					20		12月
授業時間外に 必要な学修	特に	なし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	とし、	て再	対及び	補講は行わ	わないが、特	 別な事情が	ある場合	は時間外に初	浦講を認め.	3.

		令和	2 年度	授業計	画書[シ ⁻	ラバス]							
科目名	Z202- 牛·豚	時間外 (肉用牛		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期				
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月~12月				
科目の概要	• 各専攻	別に家畜の負	詞養管理	や繁殖・肥富	育管理などの)実習を行							
講師名		学校指導職員験場川南支		大志、佐藤	登士夫、西礼	華		系経験のある をによる授業					
到達目標	・各専攻 つける。	別に家畜の負	詞養管理	や繁殖・肥富	育管理などの	実習を通	じて、生産	技術や経営の)スキルを身に				
使用教材	•講師作	成資料											
	法	知識 (40点 攻別に家畜の		技能・技術講師の採点に			率 (20点)		習態度(減点) の態度、提出物				
成績評価	管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかを 準 チェックし評定する。												
			授業の計	十画(授業の	回数やスケ	ジュール)							
□			内] 容			時間		備考				
1~20	家畜の飼	養管理等					20		4月				
21~40	家畜の飼	養管理等					20		5月				
41~60	家畜の飼	養管理等					20		6月				
61~80	家畜の飼						20		7月				
81~85	家畜の飼						5		8月				
86~90	家畜の飼家畜の飼						5		9月				
91~110 111~115	家畜の飼						20 5		10月				
116~120	家畜の飼						5		12月				
授業時間外に必要な 学修	1年間で取	立得する資格	等を決定	をし、準備す	る。								
再試験及び補習対象 の実施基準	^象 時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。												

		令和	12年度	を授業 計	画書[シ ⁺	ラバス]							
科目名	Z203	時間外(酪)		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前・後期				
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	4月~12月				
科目の概要	乳牛の	飼養管理や	繁殖・肥	門育管理など	の実習を行う	0	L.C.		to I				
講師名	・農業大	(学校指導職)	員:谷口	美津子、西	礼華			務経験のある 等による授業					
到達目標	乳牛の	搾乳や飼養	管理など	の実習を通	じて、生産技	支術や経営	宮のスキルを	身につける。					
使用教材	・講師作	成資料											
	法	知識(40点			所(40点)		率(20点)		習態度(減点)				
成績評価	殖や電話にいる	乳牛の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習やプロジェクト学習は積極的に取り組んでは、1.0											
			授業の記	計画(授業の	つ回数やスケ	ジュール))						
口			Þ	內 容			時間	j	備考				
1~10	乳牛の飼	養管理等					10		7月				
11~35	乳牛の飼	養管理等					25		8月				
36~60	乳牛の飼	養管理等					25		9月				
61~85	乳牛の飼	養管理等					25		10月				
86~110		養管理等					25		11月				
111~135		養管理等					25		12月				
136~160		養管理等					25		1月				
161~185		養管理等					25		2月				
186~210	乳牛の師	養管理等					25		3月				
授業時間外に必要な 学修	要な 1年間で取得する資格等を決定し、準備する。												
再試験及び補習対象 の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。												

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	ス]			
科目名	Z2	04	肉用牛・		学科名	畜産学科	学年	2年	Ē	学期	後期
授業の方法		講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	9月~12月
科目の概要				こおける技術 技法を学ぶ。	· f的指標、	経営的指標の	の各項目に	こついて	学ぶとと	さい、経	営分析指標等と
講師名				農業経営支援 ≳: (7~1		月牛専技(1 ⁻	~3) 酪鳥	農専技		験のある。 る授業科	
到達目標	握し		のあるべき								とに、現状を把 ともにその手順
使用教材	• 諱	靠師作成	資料								
	方法		知識(9	.,,,			(10点)			学習態周	
成績評価	基準	講義ごり評価		レポートに	数 6 • 9 • 8 • 7	第率に応じた とする。 15%以上 10%以上95%未 10%以上90%未 10%以上80%未 10%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点			提出物により て除する。
				授業の記	十画(授)	業の回数やス	ケジュー	ル)			
□				内	容				時間		備考
1	肉用	牛経営は	こおける経営	営事例研究					9/3	TH 71/ 5#	在 典类级兴士
2	肉用	牛経営は	こおける経常	営事例研究					[0, 2, 3] $[0, 2]$ $[0, 2]$		師:農業経営支 、肉用牛専技
3	, .,		. , - ,,,		試験①						
			おける経営事						9/10	担当講	師:農業経営支
5 6			aける経営 a a a なける経営		- A≅4€				D, ②, ③ 50∼12∶10	援訓	果、酪農専技
7			の分析と診断		試験②				11/10		
8			の分析と診断						①, ② 50~11:00		
9			の分析と診断								
10	肉用	牛経営の	の分析と診断	<u> </u>					11/16), ②, ③		
11	肉用	牛経営の	の分析と診断	 折	試験③			8:5	50~12:10	担当請	講師:畜産協会
12	酪農	経営の分	分析と診断						11/25	1	
13	酪農	経営の分	分析と診断					10:	②, ③ 00~12:10		
14	酪農	経営の分	分析と診断						12/1		
15	酪農	経営の分	分析と診断		試験④			8:5	①, ② 50~11:00		
授業時間外に 必要な学修	特に	こなし						ı		•	
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則]として	実施しない	いが、特別な	事情があ	らる場合は申	し出ること	と。その	後別途通	知する。	

			弇	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z20	06		経営 ティング	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前期
授業の方法	Ī	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15		開講時期	4月~7月
科目の概要	将来	像を具体	本化する:	ため、我が家	の経営る	指標の各項目 または経営事 長期計画を樹	例をもと	に、現状	を把握	量し、将来(冢経営における のあるべき経営 させる。
講師名	• 学	識経験者	旨:前畑	嘉里 氏(1 員:西 礼華	~10)				実務組	圣験のある。 よる授業科	教員
到達目標	• 経	営分析技	旨標等と」	比較し経営診	:断する前	能力を習得さ	せる。				
使用教材	・わ	豚の教科 かりやる 師作成資	い養豚	場実用ハンド	゚゙ブック						
	方法		知識(?			出席率				学習態度	
成績評価	基準	講義ごとり評価	この試験	・レポートに	数 ? • 9 • 9 • 8 • 7	審率に応じた− とする。 5%以上 0%以上95%未・ 0%以上90%未・ 0%以上80%未・ 0%未・	1.0 満 0.9 満 0.8			中の態度、抗 を上限とし	是出物により て除する。
				授業の計	·画(授美	業の回数やス	ケジュー	ル)			
回				内	容				時間		備考
1	養豚	経営の分	析・診断	事例研究					1		
2	養豚	経営の分	析・診断	事例研究					1		
3			析·診断	事例研究					1		
4			析·診断	事例研究					1		
5				事例研究					1	担当講	師:学識経験者 ■ 嘉里 氏
6 7			析・診断 析・診断						1		加土 八
8			析・診断	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *					1		
9				事例研究					1	\dashv	
10	試験	1							1		
11	経営	計画の重	要性、目的	的					1		
12	営農	計画の年	次的重点、	基本的考えた	ī				1		
13	営農	設計の作	成手順、F	内容					1	担	当講師:西
14	年次	別家畜の	飼養計画院	为訳					1		
15	営農	計画成果	品提出						1		
授業時間外に 必要な学修	特に	なし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	として領	実施しな!	ハが、特別な	事情がな	ある場合は申	し出るこ	と。その	後別途	金通知する。	

			4	1和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z207	肉	用牛経営	の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	<u>=</u>	学期	後期
授業の方法	演習	i i	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	10月~11月
科目の概要	・県内タ	外の国	肉用牛繁?	植及び肥育経	営につい	いて、優良・	最新事例	の現地調	間査を実施	施する。	
講師名	• 農業:	大学村	交指導職」	員:来間 太	:志・佐藤	※ 登士夫				験のある る授業科	
到達目標				植及び肥育経 識を習得する		いて、優良・	最新事例	の現地調	間査を実施	施し、施	設や生産管理シ
使用教材	・講師付	乍成資	資料								
	方法		修報告書	(90点)		出席率				学習態	
成績評価	基準	是出た 内容 A (自 3 (音	5り:40, まし: 0, 臭い)50, 等通)20, 悪い) 0,	点 点 点	数と ・9 ・9 ・8 ・7	野率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点			態度、提出物に として除する。
				授業の計	画(授業	美の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	枝肉共進	会							10/27		
2	枝肉共進	会						(1	0, 2, 3 0, 2, 3 0, 2 : 10		
3	枝肉共進	会				試験①)	0.6	00 12.10		
4			イン共進会								
5			イン共進						10/27		
6		_	イン共進会	,				①,	2, 3, 4, 5, 6		
7 8			イン共進 イン共進					8:5	50~16:30	扣业課	師:来間、佐藤
9		_	イン共進: イン共進 ²	,		試験②)			一二二冊	中中 · 小川、江際
10				` 事例研究(校夕	ト学習)(Î					1	
11	肥育経営	の優	良・最新	事例研究(校夕	ト学習) (Î)		\neg			
12	肥育経営	の優	良・最新	事例研究(校夕	ト学習) (Î	試験③)	(Ī).	11/19 ②, ③, ④,		
13	繁殖経営	の優	良・最新	事例研究(校夕	ト学習) (Î)			5, 6 50~16:30		
14	繁殖経営	の優	良・最新	事例研究(校夕	ト学習) ①)			00		
15	繁殖経営	の優	良・最新	事例研究(校夕		試験④)				
授業時間外に 必要な学修	特にな	L									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して気	実施しない	ハが、特別な	事情がな	うる場合は申	し出るこ	と。その)後別途	通知する。	

			4	3和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z208	酒	格農経営の	の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	=	学期	後期
授業の方法	演習	i i	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	10月~11月
科目の概要	・県内タ	外の酉	洛農経営	について、優	良・最新	新事例の現地	調査を実	施する。			
講師名	• 農業:	大学村	交指導職	員:谷口 美	≨津子、酉	1 礼華				験のある る授業科	
到達目標	県内タ識を習行			について、優	良・最新	事例の現地訓	間査を実施	施し施設・	や生産管	理シスラ	ムについての知
使用教材	講師付	乍成資	資料								
	方法		修報告書	: (90点)		出席率				学習態	
成績評価	基 • 月	是出た 内容 A (自 3 (音	5り:40/ よし: 0/ 臭い)50/ 蜂通)20/ 悪い) 0/	点点点	数 è · 9 · · 9 · · 8 · · 7	雨率に応じた : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点			態度、提出物にとして除する。
				授業の計	·画(授第	美の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	枝肉共進	会							10/27		
2	枝肉共進	会						(1	0, 2, 3 0, 2, 3 0, 2, 12:10		
3	枝肉共進	会				試験①)	0.0	70 12.10		
4			イン共進	•							
5			イン共進						10/27		
6			イン共進	_				①,	2, 3, 4, 5, 6		
7 8			イン共進 イン共進	•				8:5	50~16:30	扣业≋	觜師:谷口、西
9			イン共進: イン共進:	- ,		試験②)] 고르크	#HP . 10 H . 11
10				<u>〜</u> 事例研究(校タ	1 1 1 1 1 1 1					1	
11				事例研究(校夕		,					
12	酪農経営	の優	良・最新	事例研究(校外	卜学習) 〔1	試験③)	(Ī).	11/19 ②, ③, ④,		
13	酪農経営	の優	良・最新	事例研究(校外	卜学習)②				⑤, ⑥ 60~16:30		
14	酪農経営	の優	良・最新	事例研究(校外	卜学習)②				00		
15	酪農経営	の優	良・最新	事例研究(校夕	ト学習) ②	試験④)				
授業時間外に 必要な学修	特にな	L									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して気	実施しな	いが、特別な	事情がも	ある場合は申	し出るこ	と。その)後別途i	通知する。)

			수	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z209	耆	€豚経営 <i>0</i>)事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	=	学期	後期
授業の方法	演習	N H	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	10月~11月
科目の概要	・県内	外の同	肉用牛繁殖	値及び肥育経	怪営につい	いて、優良・	最新事例	の現地訓	間査を実施	をする。	
講師名	・農業	大学村	交指導職」	員:来間 太	:志・佐藤	菱 登士夫				険のある。 る授業科	
到達目標	・県内タステム			値及び肥育経	怪営につい	いて、優良・	最新事例	の現地訓	間査を実加	をし、施	設や生産管理シ
使用教材	• 講師 ⁴	作成資	資料								
	方法	±∆ krkr √	知識(7		in sin	学習態度				出席率(
成績評価	基準		ど美施し、	理解度を評	A: 講し B: 受講 C:	構態度をA〜C 興味関心を持 している (20点 周囲に迷惑 (1 居眠り、スマ 衰に集中して	持って積極 (E) (E) (E) (D) (E) (D) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E	函的に受 となく により	数とする ・95%以 ・90%以 ・80%以	5。 上 上95%未 上90%未 上80%未	満 0.8
				授業の計	一画(授第		ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	枝肉共進	全							10/07		
2	枝肉共進	绘						(1	$10/27$ $0, 2, 3$ $50 \sim 12:10$		
3	枝肉共進	绘				試験①)	0.6	00 -12.10		
4	全国ホバ	ノスタ	イン共進会	<u></u>							
5		_	イン共進会	`					10/27		
6			イン共進会					①,	2, 3, 4, 5, 6		
7 8			イン共進会 イン共進会	_				8:8	50~16:30	+□ 八√ ∋華	師:来間、佐藤
9			イン共進: イン共進 ⁴			試験②)			担当再	叫. 术间、佐藤
10			, , , , , , , ,	` 事例研究(校タ	小学習) 〔1	# ·V()	•			1	
11				事例研究(校夕	. ,	,					
12	肥育経営	営の優	良・最新	事例研究(校外	小学習) ①	試験③)	(Ī).	11/19 ②, ③, ④,		
13	繁殖経営	営の優	良・最新	事例研究(校タ	小学習) 〔1)			⑤, ⑥ 50~16:30		
14	繁殖経営	営の優	良・最新	事例研究(校タ	小学習) ①						
15	繁殖経営	営の優	良・最新	事例研究 (校夕	 小学習) 〔1	試験④)			<u> </u>	
授業時間外に 必要な学修	特にな	L									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	してき	実施しない	ハが、特別な	き事情がも	かる場合は申	し出るこ	と。その)後別途道	通知する。	o

			4	1和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z2	10	肉用牛の	飼養管理	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	i	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	Ŗ	開講時期	9月~12月
科目の概要				犬況に応じて 成果を学ぶ。	課題を耳	・ 负り上げ、肉	用牛の飼	養管理技	術につ	いて知識	・技術ととも
講師名				員:来間 太 部(13~1		· 登士夫(1~12			験のある。 る授業科	
到達目標						取り上げ、ゼ 険研究成果に				理技術に	ついて知識・
使用教材	• 目	本標準	準飼料分析	表、日本飼養	₹標準(F	肉用牛)、講	師作成資	料			
	方法	-11: \	知識(9			出席率				学習態度	
成績評価	基準	講義ごり評価		・レポートに	数 ? • 9 • 9 • 8 • 7	言率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8				提出物により て除する。
				授業の計	·画(授美		ケジュー	ル)			
回				内	容				時間		備考
1			育経営技術(7/14 ②, ③		
3		· · · · · · · · · · · · · · · · · ·	育経営技術(_	
4			育経営技術	_					7/21 ②, ③		
5	繁殖	及び肥	育経営技術の	5					7/28		
6	繁殖	及び肥	育経営技術(6)				(2,3	1 担当講	師:来間、佐藤
7	繁殖	及び肥	育経営技術(7					9/8	1= 11	
8	7107	,, t o ,, <u>a</u>	育経営技術(1), 2)	_	
9			育経営技術(_					9/11 ①, ②		
10		·· • · · · · · ·	育経営技術						0 /15	-	
12	試験		THAT HE TO THE						9/15 ①, ②		
13	肉用	牛の最	新の試験研究	究と成果①					0 / 4	1.	
14	肉用	牛の最	新の試験研究	究と成果②					9/4		師:畜産試験場 肉用牛部
15	試験	2						8:50	0~12:10		/ 14 1 EIF
授業時間外に 必要な学修	特に	なし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	として	て実施しない	ハが、特別な	事情がな	ある場合は申	し出るこ	と。その	後別途:	通知する。	

		令	1和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ζ]			
科目名	Z211	乳用牛の	飼養管理	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	弉	講時期	9月~12月
科目の概要		こおける飼養:		課題を耳	・ 対り上げ、乳	用牛の飼	養管理技	術につい	ハて知識	・技術ととも
講師名	・農業力 場酪農飼	、学校指導職 同料部(13·	員:谷口美津 ~15)	生子、西本	L華(1~1	2)、畜			験のある。 る授業科	
到達目標		こおける飼養					乳用牛の	飼養管理	埋技術に	ついて知識・技
使用教材	 日本標 	票準飼料分析:	表、日本飼養	き標準(デ	L用牛)、講	師作成資	料			
	方法	知識(!			出席率				学習態度	
成績評価	講義的記述	をごとの試験 呼価	・レポートに	数と ・9: ・9: ・8:	野率に応じた 2 する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点	講義中の 20点を ₋	の態度、打 上限とし	是出物により て除する。
			授業の計	·画(授業	美の回数やス	ケジュー	ル)			
口			内	容				時間		備考
1	酪農経営	の飼養管理技術	淅①					7/14		
2	酪農経営	の飼養管理技術					(2,3		
3		の飼養管理技術						7/21 ②, ③		
4		の飼養管理技術						2, 3	<u> </u>	
5 6		の飼養管理技行 の飼養管理技行						7/28 ②, ③		
7		の飼養管理技行						0./0	担当請	\$師:谷口、西
·		の飼養管理技術	1.0				(9/8 ①, ②		
9	酪農経営	の飼養管理技術	析⑨					9/11	1	
10	酪農経営	の飼養管理技術	析⑩					1, 2		
11	酪農経営	の飼養管理技術	淅⑪					9/15	1	
12	試験①						(1), 2)		
13		最新の試験研究						9/4	担当講	師:畜産試験場
14		最新の試験研究	究と成果②					, ②, ③)∼12:10		A農飼料部
15 授業時間外に 必要な学修	特になし	,								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則とし	て実施しなり	いが、特別な	:事情があ	らる場合は申	し出るこ	と。その	後別途ù	通知する。	

科目名	Z212		豚の飼	養管理	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
受業の方法	講義		区分	 必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月~7月
V = - lmr ==		- <i>El</i> -T	+ → n→ 1	7 × 10 mm = = = = = = = = = = = = = = = = = =	40.44. k	. A-1 ->	7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	- E +r 1		204 20
斗目の概要 						即養官埋体	糸とともに	(最新の試	験研究成果を	子か。
講師名	宮崎	大学:	家入 訂	員:西 礼華 成二氏(7~9 斗長(13~1	9)、川島	知之氏(1	0~12)		務経験のある による授業科	
到達目標	・飼養領		本系及び最	最新の試験研	千究の知識	哉を習得する	0			
使用教材	・養豚の・講師作									
	方法		知識(9	0 点)		出席率((10点)			度(減点)
成績評価	基準	義ご	とのレ ポ	一トにより記	数と ・98 ・90 ・80	5率に応じた : する。 5%以上 0%以上95%未: 0%以上90%未: 0%以上80%未: 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8		義中の態度、 点を上限とし	
				授業の計	一画(授業	きの回数やス	ケジューハ	<i>(</i>)		
回				内	容			時	間	備考
1	種雌豚の	繁殖	管理(基本	本管理、発情	• 交配適期]、妊娠鑑定等	<u>.</u>)	1		
2	種雌豚の	繁殖	管理(基本	卜管理、繁殖 :	サイクル、	人工授精等)		1		
3	候補豚の	管理	(馴致手法	去、母豚群免疫	变安定化、	候補豚選抜等	:)	1		当講師:西
4	哺乳豚の	管理	(基本管理	里、ワクチン	• 抗生剤、	A I · AO等	=)	1		
5	肥育豚の	管理	(基本管理	里、疾病管理等	等)			1		
6	試験①							1		
7			配及び能力					1		講師:宮崎大学
8		、交	配及び能力	力検定				1	家力	人 誠二 氏
9	試験②	- /	₩₩₩	₩ →	1077 m ~ 1			1		
10				バエコフィー				1	担当計	講師:宮崎大 ^学
11		1但 豚	刈生座及 (バエコフィー	ト活用の事	・例の美院		1		島 知之氏
12	試験③	- ス 具 :	年の計略で	研究と成果	担訴・玄:	産試験場川南き	大坦.	1		
13	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	w + pc,		T先と成来 F究と成果	物のい語	生叶吹物川苇之	× <i>*</i> /m	1	担当詞	講師:川南支持
15	試験④	. ひ 対又 2	17 1 マン 124 (初火年)	カルしみ不				1		養豚科科長
受業時間外に 必要な学修	特になり								•	

・農業プライン・農業プライン・		必修 た肉用牛の飼 員:来間 太 習得し、給与	:志、佐藤	秦 登士夫	学年 時間数 、効率的、	49.5	学期 開講時期 な飼料給与の野 実務経験のある 等による授業利	里論を学ぶ。
・パソジ・農業・ 毎日日講本本師付方法講講	コンを活用した 大学校指導職員 投計の理論を 標準飼料分析。 同養標準(肉) 作成資料	た肉用牛の飼 員:来間 太 習得し、給与	 	受計を習得し 登士夫		効果的	よ飼料給与の野 実務経験のある	里論を学ぶ。
・農業プライン・農業プライン・	大学校指導職 受計の理論を 票準飼料分析。 詞養標準(肉) 作成資料	員:来間 太 習得し、給与 表	:志、佐藤	秦 登士夫	、効率的、	49.5	実務経験のある	
・飼料記・日本格・日本係・講師の方法講講	受計の理論を 票準飼料分析。 同養標準(肉) 作成資料	習得し、給与表						ス 数 昌
・日本格・日本館・講師付方法講郭	票準飼料分析。 词養標準(肉) 作成資料	表	4設計、診	>断の技術を			守による1文未作	
日本館・講師作方法講郭	词養標準(肉) 作成資料				習得する。			
法講	知識(?							
				出席率((10点)		学習態	態度(減点)
基準	髪ごとの試験 平価	・レポートに	数と ・98 ・90 ・80	野率に応じた。 : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	ンた点 2 2	構義中の態度、 20点を上限と↓	提出物により して除する。
		授業の計	一画(授業	きの回数やス.	ケジューバ	レ)		
		内	容			Ħ		備考
繁殖牛の	養分要求量						/23	
	養分要求量					(1), ②	
		 計算①				1/)/21	
繁殖牛の	養分要求量の割	計算②						講師:来間、佐原
肥育牛の	養分要求量の記	計算①				10	0/26	
肥育牛の	養分要求量の言	計算②				2), ③	
育成牛の	養分要求量の割	計算①						
育成牛の	養分要求量の意	計算②				(2), (3)	
	会会の計算の計算の計算	第2)						
特になり		/) が、 特別 /)	こ事情がお	5る場合け由	し出るこ			5.
f _ ` 食] 9 9 月 月 f _ ` _ ` _ ;	育成牛の養成牛の海 子司やで発発では、 子司を発発でする。 一名では、 一。 一。 一。 一。 と、 の。 と、 と、 と の。 と と の。 と の。	育成牛の養分要求量 子牛の養分要求量 同料の成分特性と選択 P C操作の基本事項 察殖牛の養分要求量の言 際殖牛の養分要求量の言 管成牛の養分要求量の言 育成牛の養分要求量の言 育成牛の養分要求量の言 育成牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言 子牛の養分要求量の言	育成牛の養分要求量 子牛の養分要求量 同料の成分特性と選択 P C操作の基本事項 察殖牛の養分要求量の計算① 整殖牛の養分要求量の計算② 門育牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算②	育成牛の養分要求量 子牛の養分要求量 同料の成分特性と選択 P C操作の基本事項 察殖牛の養分要求量の計算① 整殖牛の養分要求量の計算② 門育牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② オ験①	育成牛の養分要求量 子牛の養分要求量 同料の成分特性と選択 P C操作の基本事項 察殖牛の養分要求量の計算① 整殖牛の養分要求量の計算② 門育牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② オ験①	育成牛の養分要求量 子牛の養分要求量 同料の成分特性と選択 P C操作の基本事項 察殖牛の養分要求量の計算① 整育牛の養分要求量の計算② 門育牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 育成牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② 子牛の養分要求量の計算② オ験①	育成牛の養分要求量	10/6

			^	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名		乳用	牛の飼料	·設計	学科名	畜産学科	学年	2年	1	学期	後期
授業の方法		講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	Ī	涓講時期	9月~11月
科目の概要	・ゲ	パソコンを	を活用し	た乳用牛の飼	料給与	設計を習得し	、効率的	、効果的	りな飼料	給与の理	論を学ぶ。
講師名	• 農	と 業大学を	交指導職」	員:谷口美津	子、西	北華				験のある。 る授業科	
到達目標	• 館	料設計の	D理論を ³	習得し、給与	·設計、詞	診断の技術を	習得する	0			
使用教材	• 目	本標準館 本飼養標 本飼養質	票準(乳)								
	方法		知識(学習態度				出席率(
成績評価	基準	試験等をする。	主実施し、	理解度を評	A: 講: B: 受: C:	構態度をA〜Cc 興味関心を持 している(20点 周囲に迷惑を 構している(10 居眠り、スマ 髪に集中して	fって積極 () かけるこ () () の点) マホ操作等	を となく な により	数とす・95%以・90%以・80%以	る。 以上 以上95%未 以上90%未 以上80%未	茜 0.8
				授業の計	·画(授美	業の回数やス	ケジュー	ル)			
口				内	容				時間		備考
1	搾乳	牛の養分	要求量						9/23		
2		牛の養分							①,②		
3		牛の養分の養分要							10/6 ①, ②		
4 5		の様分等の成分特	. —							-	
6		操作の基準							10/13 ①, ②		
	搾乳	牛の養分	要求量の記	計算①					10/21	1	
8	搾乳	牛の養分	要求量の記	計算②					2,3	担当請	靖師:谷口、西
9	乾乳	牛の養分	要求量の言	計算①					10/26	7	
10	乾乳	牛の養分	要求量の記	計算②					2,3	_	
11	1477	牛の養分		., ,, ,					10/30 ②, ③		
12	14///	牛の養分		.,,, 0					2,0	4	
13 14	, ,	の養分要	**************************************	,, ,					11/2 ②, ③		
15	試験		小玉小川	#• <u> </u>					11/92	1	
授業時間外に 必要な学修	特に	こなし						·			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	上して銅	実施しない	ハが、特別な	事情がる	ある場合は申	し出るこ	と。その)後別途	通知する。	

科目名	Z215	豚の疾病	ラと衛生	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開	講時期	4月~7月
科目の概要	 豚疾病 	の種類とその	の予防・治療	▲ 表方法及で	 養豚現場に	おけるバイ	'オセキ	ュリティ	ィ対策に〜	ついて学ぶ。
講師名	·NOS		生産獣医療セ		ーダー (1〜 : 辻 厚史氏6				険のある勃 る授業科 [
到達目標	• 繁殖性	向上のための	の最新の考え	方を習得	导する。					
使用教材	• 講師作	成資料								
	方法	知識(9	9 0 点)		出席率	(10点)			学習態度	E(減点)
成績評価	講義 り評 基 準	ごとの試験 価	・レポートに	数と ・9 ・9 ・8 ・7	青率に応じた : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8				是出物により て除する。
			授業の計	·画(授業		ケジュール	~)			
回			内	容			F	時間		備考
1	養豚現場は	こおけるバイス	ナセキュリティ	の実際				1	扌	
2	養豚現場は	こおけるバイス	ナセキュリティ	ィの実際				1	宮崎家	音保健衛生所
3	試験①							1	衛生指3	算担当リーダ [、]
4	豚疾病の種							1	-	
5	豚疾病の種							1		
6	豚疾病の							1		
7 8	豚疾病の	- 0 -						1		
9	豚疾病の治							1	担当講師	F:NOSAI連宮
		<u> </u>	り繁殖サイクノ	レ)				1		厚史 氏 田誠司 氏
11	豚繁殖性		直性向上のため	かの飼養管	(理)			1	遠	矢良平 氏
12	豚繁殖性[直性向上のため	かの飼養管	理)			1	1	
13	豚繁殖性口	向上対策 (繁死	直豚の台帳管理	里、見える	5化)			1	1	
14	豚繁殖性	向上対策(繁 列	直障害の原因と	と改善方法	₹)			1		
15	試験②							1		
受業時間外に 必要な学修	特になし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則とし	て実施しない	ハが、特別な	き情がな	ある場合は申	し出ること	こ。その	後別途道	五知する。	

			수 	`和 2 年度 ————	授業	計画書[:	シラバス	₹]			
科目名	Z21	6	育種と (そ <i>0</i>	繁殖Ⅱ ○2)	学科名	畜産学科	学年	2年	学	期	前期
受業の方法	計	 構義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講	時期	4月~7月
科目の概要	の内	容を学る	ぶ。繁殖	では繁殖に関	連する主	質の遺伝、家 Eなホルモン 技術について	の作用機				
講師名	• 農	業大学村	交指導職員	員:佐藤 登	登士夫 (1	1~5)、西 コ 美津子(礼華(実務経験の 等による授		〇
到達目標				こ関する知識 する知識を習				<u>l</u>			
使用教材		畜人工拉 師作成資		会テキスト							
	方法		知識(9			出席率				:習態度(
成績評価		講義ごとか評価	この試験	・レポートに	数と ・9 ・9 ・8	書率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点 2 2	講義中の創 20点を上降	態度、提 退として	出物により 除する。
				授業の言	十画(授業	美の回数やス	ケジュー	ル)			
回		は「	家畜人工	内 受精に関する	容 講習」(E	国)の科目名及	び内容	Ħ	宇間	ſi	業
16			子の形成。 精液量及で	と成熟) び精子数並びに	「精液の理化 ・			5/	29①		
17	●〈精	肾子生理〉		び精子数並びに	に精液の理化	上学的性状		6/	/2①		
18			子の形態。 精子の形態					6/	/5①		
19	精子生	上理(精 子生理〉	子の形態。 精子の機能	と機能) <mark>も</mark>				6,	/9②	担当請	講師:垂水
20			子の形態。 精液性状】	と機能) 及び精子機能に	:関与する要	区		6/	12①		
21	●〈禦	《殖生理》	尾・射精。 射精の機用					6/18	B2, 3		
22	試験②	3) 青子生理〉						0/18	<i>,</i> ⊕		
23				青子検査法) g及び精子の検				6 /01	5(2), (3)		
24				青子検査法) g及び精子の検	(演習) 查法			0/28	, w		
25		受精技術 青液精子梅		青子検査法) g及び精子の検	(演習) 查法			7/14	62,3		
26		受精技術 液精子核		青子検査法) 変及び精子の検	(演習) 査法			(/10	JU, (J)	1 □ \// ≃	集団・から
27		受精技術 液精子機		青子検査法) 変及び精子の検	(演習) 査法			E /c:		担当前	講師:谷口
28	人工技	受精技術	Ⅲ(精液料	青子検査法) 変及び精子の検	(演習)			7/22	22,3		
29	人工技	受精技術	Ⅲ(精液料	表の権力の機 青子検査法) 変及び精子の検	(演習)						
30	試験(1)		変及び精子の検				7/29	92,3		
受業時間外に 必要な学修	特に		<u>、 </u>	スス・O'TH TVノ快	<u>: 141</u>				I		
再試験及び補 習対象の実施	原則	としてタ	実施しない	ハが、特別な	な事情があ	ある場合は申	し出るこ	と。その往		叩する。	

科目名	Z21	16	育種と (そ <i>0</i>	繁殖Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前期
受業の方法	III.	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	+	開講時期	4月~7月
226 - 23 112					1 ,						家畜登録制
斗目の概要	の内	容を学る	ぶ。繁殖	では繁殖に	関連する主		の作用機				繁殖生理、妊
講師名	・農 4)					l ~ 5)、西 5口 美津子				圣験のある\$ よる授業科∣	
到達目標				こ関する知識 する知識をで							•
使用教材		畜人工拉 師作成資		会テキスト							
	方法		知識(?			出席率	(10点)			学習態度	度(減点)
成績評価		講義ごとり評価	この試験	・レポート	数と ・9 ・9 ・8 ・7	野率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点	講義中20点を	中の態度、₺ を上限とし [*]	是出物により て除する。
				授業の記	計画(授業	きの回数やス	ケジュー	ル)			
口		は「	家畜人工	内 受精に関する	容 講習」(E	国)の科目名及	び内容		時間		備考
1			(内分泌体 繁殖機能)	既論) こ係るホルモン	ノ及び神経						
2	神経	内分泌	(内分泌					4/1	132, 3)	
3	神経	・内分泌	(繁殖に	関連する主な ✓の種類及びℓ	ホルモン)			4.7	170 0		á講師:佐藤
4				関連する主な ✓の種類及びℓ				4/.	17②, ③)	
5	試験(4	/20①		
6				その制御・調 朝性及び性成業				4	/21①		
7	繁殖	生理(発	情周期と	その制御・調明性及び性成熟	節機構)			4	/24①		
8	繁殖	生理(発	情周期と	その制御・調と伴う生殖器及	節機構)	5化		4	/27①		
9	繁殖	生理(発	情周期と	という その制御・調 に伴う生殖器及	節機構)			4	/30①		
10	繁殖	生理(発	情周期と	とロリエル語の その制御・調 交配)適期		. 1 d		ŧ	5/7①	担	当講師:西
11	繁殖	生理(発	情周期と	<u>x配)週期</u> その制御・調 交配)適期	節機構)			5	/11①		
12	繁殖	生理(発	情周期と	その制御・調		おける精子及び卵		f=7 × 5	/15①		
13	繁殖	生理(発	情周期と	その制御・調		いい 公相丁及いり	ドリックタリ		5/18①		
14	試験(2		受精卵の発育				5	5/21①		
15	精子	生理(性	は熟と繁殖	直供用)	and the second of	. No. 11. 14. 15			5/26(Ī)	担 当	á講師:垂水
受業時間外に 必要な学修	特に		相似里仪(ド精子数並び に	<u>- 精</u> 仪の理化	(学的)生状					
写試験及び補 図対象の実施	原則	レレて	上海 しか		か車棒がな	ある場合は申	〕山ステ	L 20	· 公口口	〜 -	

			和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	Z217	家畜の衛	生と環境	学科名	畜産学科	学年	2年	£	学期	前・後期
授業の方法	講弟	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	6月~11月
科目の概要										畜産環境を取り と重要性を学ぶ
講師名	宮崎?	防疫対策課: 家畜保健衛生 試験場川南支	听:病性鑑 定	課(6~	~10)				険のある。 る授業科	
到達目標	家畜?	新生及び畜産 ³	環境の情勢と	課題及び	びその対策技	術に関す	る知識を	習得する	5.	
使用教材	• 講師(作成資料								
	方法	知識((L 1115	出席率(10.4 -	=# ¥: d- a	学習態度	
成績評価		嵏ごとの試験 平価	・レボートに	数と ・9 ・9 ・8 ・7	言率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未; 0%以上90%未; 0%以上80%未; 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	した点			提出物により て除する。
			授業の計	·画(授第		ケジュー	ル)			
口			内	容				時間		備考
1	世界及び	ド日本における独	実病の発生状況	兄と防疫体	比制			11/4		
2	世界及び	ド日本における _犯	疾病の発生状 液	兄と防疫体	比制			②, ③ 00~12:10	担当講	師:家畜防疫対
3		おける疾病の多						11/6		策課 疫指導担当
4	宮崎県に	おける疾病の	発生状況と防疫	逐体制), ②, ③ 60~12:10	P);	反相等担 目
5	試験①									
6		この目的と疾病が	****					6/15 ①, ②		
7		この目的と疾病が	****				8:5	0~11:00		師:宮崎家畜保
9		育易診断法と予照 						6/22), ②, ③		健衛生所 F性鑑定課
10	試験②	IN EN EN LIAC I !	▽1久 1生					50~12:10		
11		ナつ物の適正処理	 里と利用					7/8		
12		上理技術と施設	. */ **					②, ③ 00~12:10		
13	汚水処理	型技術と施設								講師:川南支場 環境衛生科
14	悪臭対策	ŧ						7/10	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	R-炉田工作
15	試験③						8:5	50∼12:10	<u> </u>	
授業時間外に 必要な学修	特にな	———— L								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して実施しない	ハが、特別な	:事情がお	ある場合は申	し出るこ	と。その)後別途道	通知する。	

			介 ——	和 2 年度	授業	計画書 [シラバス	k]			
科目名	Z21	.8	家畜の)解剖	学科名	畜産学科	学年	2年		学期	前期
受業の方法	計	構義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	6月~7月
斗目の概要			の構造に~ 解剖学を		筋肉、脂	、 議器について	総括的に	理解させ	るととも	っに、削路	帝を行う上で』
講師名		崎大学 (11~		宏 氏 (1~)	1 0),唐	農業大学校指	導職員:			食のある教 6授業科目	
到達目標				ついて理解す する知識を習							•
使用教材		畜人工拉 師作成資	受精テキ! 資料	スト							
	方法		知識(9			出席率				学習態度	
成績評価		講義ごとり評価	この試験	・レポートに	数と ・9: ・9: ・8:	野率に応じた - する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点	講義中 <i>の</i> 20点を上	の態度、抗 に限として	是出物により て除する。
				授業の計	画(授業		ケジュー	アレ)			
口		は「	家畜人工	内 受精に関する詞	 容 講習」(国	国) の科目名及	び内容	B	寺間		備考
1	家畜の	の骨格							5 (火)		
2	家畜の	の骨格							②, ③)~12:10		
3	家畜の	の骨格							3 (火) ②,③		
4	家畜の	の筋肉)~12:10		
5	家畜の	の筋肉							5 (木) ②,③		師:宮崎大学
6	家畜の	の臓器)~12:10	保日	田昌宏 氏
7	家畜の	の臓器) (火) ②,③		
8	家畜の	の肢蹄の	構造)~12:10		
9	家畜の	の肢蹄の	構造						(木) ②, ③		
10	試験(_)~12:10		
11	〈生	三殖器解音	小 精子形成	分類と発生) 戈及び卵子形成					7/1		
12	生殖器	器解剖(E殖器解音	生殖器の分 引〉精子形成	分類と発生) 戈及び卵子形成				2	2), 3		
13				ド態及び機能) D形態及び機能						担当	講師:谷口
14	生殖器	器解剖 (生殖器の別	ド態及び機能) D形態及び機能					7/7 ②, ③		
15	試験(
受業時間外に 必要な学修	特に							•			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	としてタ	実施 しない	ハが、特別な	事情があ	ある場合は申	し出るこ	と。その	後別途追	通知する。	

		弁	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	k]			
科目名	Z219	畜産の	新技術	学科名	畜産学科	学年	2年	Ē	学期	後期
授業の方法	講義・演習	図 区分	一般	単位数	1	時間数	15	ß	昇講時期	9月~12月
科目の概要	・畜産にお 術の意義、 普及状況に	採卵、検り	卵、移植まで	や課題にの一連の	こついて理解 分知識と技術	させるとる に加え、E	ともに、 宮崎県に	バイオ	テクノロミ 受精卵移植	ジーの歴史、技 直技術の利用と
講師名	・農業大学・畜産試験5)	校指導職 湯:研究2	員:谷口 美》 企画主幹(1	津子(4 ~3)、	~ 6) 家畜バイテ	ク部(7~	~ 1		験のある。 る授業科	
到達目標	・畜産にお	おける新技行	ボや受精卵移	植に関す	「る知識を習	得する。				
使用教材	・講師作成	資料								
成績評価	法講義ごり評価基準		90点) ・レポートに	数と ・9: ・9: ・8:	出席率 (野率に応じた する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%以未 0%未満	係数を乗↓ 1.0 満 0.9 満 0.8	じた点			き(減点) 是出物により て除する。
			授業の計	·画(授業	巻の回数やス	ケジューノ	レ)			
□			内	容				時間		備考
1	畜産における	る新技術開	発の現状と課	題(大家	畜)					
2	畜産における	る新技術開	発の現状と課	題(飼料、	. 豚)		8:5	11/13 50~12:10		師:畜産試験場 究企画主幹
3	畜産における 試験①	る新技術開	発の現状と課	題(鶏、ぽ	家畜排せつ物)				191	/ UIL PH - L. TI
4	体内受精卵	移植技術の	沿革と制度、	県内におり	する歴史と普2	及]	1/17②		
5			実際の手順(採取、処理	理、移植)		11	/24①, ②	担当	á講師:谷口
6	体外受精卵和 試験②	移植技術の	概要				11	7210,0		
7	受精卵の採り	卵(演習)						11/17		
8	受精卵の採り	卵(演習)					(1	11/17 D, ②, ③ 10~16:30		
9	受精卵の採り	卵(演習)								
10	受精卵の採り	卵(演習)						11/10		
11	受精卵の採り	卵(演習)					(1	11/18 D, ②, ③ 10~16:30	≠ ₹	師:畜産試験場 昏バイテク部
12	受精卵の採り	卵(演習)					13.	10 -10.50		
13	受精卵の採り	卵(演習)						11/04		
14	受精卵の採り	卵(演習)					(1	11/24 D, ②, ③ 10~16:30		
15	試験③						13:	10. ~10.30		
授業時間外に 必要な学修	特になし						·			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則として	実施しない	ハが、特別な	事情があ	うる場合は申	し出ること	と。その)後別途:	通知する。	

			和2年度	授業	計画書[シラバス	ζ]			
科目名	Z220	畜産物の加	加工と流通	学科名	畜産学科	学年	2年	Ξ.	学期	後期
授業の方法	講義・	演習 区分	一般	単位数	1	時間数	15	開	講時期	9月~11月
科目の概要		関連法の基礎 肉製品の製造								ハて学ぶ。ま
講師名	・宮崎; 9)、i	大学:河原聡南日本酪農協	氏(1~3) 同(株):竹藤	、(株) 春香氏、	ミヤチク:福 大山紗矢氏	嶋能之氏 (10~	$(4 \sim 15)$		験のある。 る授業科	
到達目標	乳肉。	加工の製造の	基礎を習得す	る。						
使用教材	• 講師 [/]	作成資料								
	方法	知識(b 1111	出席率		10 & F	** * +	学習態度	
成績評価		義ごとの試験 評価	・レボートに	数 3 • 9 • 9 • 8 • 7	帝率に応じた とする。 15%以上 10%以上95%未 10%以上90%未 10%以上80%未 10%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点			提出物により て除する。
	•		授業の計	画(授業	美の回数やス.	ケジュー	ル)			
口			内	容				時間		備考
1	食品関連	車法の基礎知識	、乳肉加工の種	類と特徴	数			11 /00		
2	食品関連	車法の基礎知識	、乳肉加工の種	重類と特徴	数			11/20 D, ②, ③ 50~12:10		肆師:宮崎大学 『原聡 氏
3	試験①						0.6	00.012.10		
4		品の製造(演習)		調理室、	肉加工室			11/11 ②, ③		
		品の製造(演習)					10:	00~12:10	<u> </u>	出当講師:
6 7	,	品の製造(演習) 品の製造(演習)						11/12	(树	ミ)ミヤチク
8		品の製造(演習)						(2, 3, 4) $50 \sim 12:10$	福川	鳴能之 氏
9	試験②	100款坦(庚日)	'				13:	10~14:10		
10		品の製造(演習)	場所	「:調理3	<u> </u>					
11	乳加工品	品の製造(演習)					\neg	10/10		t
12	乳加工品	品の製造(演習))					10/16		l当講師: : 酪農協同(株)
13	乳加工品	品の製造(演習))				8:5	①, ⑤, ⑥ 50∼12∶10	竹	藤春香 氏
14	乳加工品	品の製造(演習))				13:	10~16:30	一	山紗矢 氏
15	試験③									
授業時間外に 必要な学修	特にな	L								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と	して実施しな	いが、特別な	事情がる	ある場合は申	し出るこ	と。その)後別途i	通知する。	

			令	和2年度	授業	計画書[:	ンラバス	ベ]		
科目名	Z2.	21	削蹄	実習	学科名	畜産学科	学年	2	学期	前期
授業の方法		実習	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月~8月
科目の概要	・家	畜の削品	締の必要性	生とともに肖	川蹄技術を	学ぶ。				
講師名	• 宫	`崎県削	蹄師協会	: 宮窪悦男、	公益社団	法人日本装	削蹄協会		8経験のある こよる授業科	
到達目標	・削 ・2	蹄の技行 級認定	おを習得る 削蹄資格を	ける。 を取得する。						
使用教材		·削蹄入 指師準備								
	方法	知言	畿(40点	(表) 技	能・技術	(40点)	出席	率(20点)	学習	習態度(減点)
成績評価		講習会記る。	式験の採点	まによ 講館	研の採点(こよる。	乗じた ・95%以 ・90%以	上95%未満 上90%未満		の態度、提出物 の点を上限とし る。
	'			授業の記	十画(授業	きの回数やスク	ケジュー	ル)		
□				内	容			時間	J	備考
1	削蹄	で基礎は	こついて					1		
2			こついて					1		
3		実習						1		
4		実習						1	担当講	師:宮崎県削蹄
5		実習						1		会・宮窪悦男
6		実習						1		
7		宇羽						1		
8 9		演習 演習						1		
10		実習						1		
11		実習						1		
		基礎知識						1	担当講	師:日本装削蹄 師協会
13		基礎知言						1		
14		削蹄実						1	(肖	蹄講習会)
15		削蹄実						1		
授業時間外に 必要な学修	特に	なし						ı	l	
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	して補	習は実施し	しない。						

			令	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	F2	01	専攻	実習	学科名	農学科 畜産学科	学年		2	学期	前期 後期
授業の方法		実習	区分	必修	単位数	9	時間数	2	70	開講時期	4月~1月
科目の概要	農産	を物、 畜産	産物を様	々な手法を使	きって加口	Lを行い、加	工に関す	る基礎	楚知識と	技術を学ぶ	
講師名	畜産	三学科 二	フードビ	ジネス専攻	主任技能	市 今吉里	華			経験のある よる授業科	
到達目標				加工技術を習知識を身につ		Ľから販売ま	での一連	『の流》	≀を理解 ゙	する。	•
使用教材	食品	制製造実	習関連資	料							
	方法	知語	戦(40)	点) 技	能・技術	: (40点)	出席	率(2	20点)	学習	習態度(減点)
成績評価		た商品関	畜産物? 開発を通 D習得を ⁹	して加	下の採点(こよる。		上点数 (上 (上95% (上90%	未満 0.	により2 0 て除する 9	の態度、提出物 10点を上限とし 3。
								Ī			
口				内	容				時間		備考
5			食品	品衛生管理に	関する基	基礎知識			5		
51		に産の作物 製造	勿を使っ?	た焼き菓子	(マドレー	ーヌ、パウン	ドケーキ	-	51		
42	農大造	に産の作 物	勿を使っ?	たジャム類	(イチゴ、	マーマレー	ド等) の)製	42		
86	農大	定産の牛乳	乳を使って	たアイスクリ	ームの製	製造			86		
43	農大	産の畜産	産物使った	たハム、ベー	-コン、)	ノーセージ製	造		43		
43	プロ	リジェク	ト学習に	関連した加工	実習				43		
授業時間外に 必要な学修	特に	こなし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	としてテ	再試及び	補講は行わな	さいが、年	寺別な事情が	ある場合	、は時間	間外に補詞	溝を認める	•

			令	和2年度	授業	計画書[シラバス	₹]		
科目名	F2	02	時間タ	卜 実習	学科名	農学科	学年	2	学期	前・後期
授業の方法		実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月~12月
科目の概要		・ドビジ いい いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと		において、必	必要な資格	各取得に関す	る学習や	学生出資会社	土の販売実習	、専攻での特別
講師名	各種		得先講師						系経験のある よる授業科	
到達目標	各種	資格取	得のため	の講習・各種	〔イベント	、等への参加]や資格の	取得を通じて	て学生の技術	向上を図る
使用教材	資格	が取得の だんしん	ためのテ	キスト						
	方法	知言	哉(40)	点) 技	能・技術	(40点)	出席	率(20点)	学習	習態度(減点)
成績評価	#	講習・4 への参加 を通じ	各取得の 各種イベ、 加や資格の て、必要 犬況を判し	ント等 フ取得 な知識	币の採点 ・ 責による。	・資格取得	乗じた ・95%以 ・90%以	上95%未満 上90%未満		D態度、提出物 0点を上限とし 3。
				授業の計	·画(授業	の回数やス	ケジュー	ル)		
月				内	容			時間		備考
4	時間	引外実習						15		
5	時間	外実習						15		
6		外実習						15		
7		外実習						15		
8		外実習						15		
9		外実習						15		
10		外実習						15		
11		引外実習 引外実習						15 15		
14	H41目	1/17大日						10		
授業時間外に 必要な学修	1年	間で取得	計する資格	4等を決定し	、準備す	る。				
再試験及び補 習対象の実施 基準	時間	引外実習(の時間が	不足する場合	ì、休業期	閉門中に時間]外実習を	行う。		

			令	和2年度	授業	計画書	シラバ	ス]		
科目名	F2	03	食品関連	企業実習	学科名	全体	学年	2年	学期	後期
授業の方法		実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	9月~3月
科目の概要	食品	関連企	- 業での実	習を通じて	、農大でに	は出来ない	高度な加工	上技術や商品	開発につい	て知る
講師名	農業	大学校	農学科	フードビジ	ネス専攻	甲斐紀子			防経験のある 等による授業	
到達目標	食品める		業での実	習を通じて	、農大では	は出来ない	高度な加工		開発につい	て知見や経験を複
使用教材	各企	業, 各企	と業に関す	⁻ る資料						
	方法	知言	識(40)	点)	支能・技術	(40点)	出席	率 (20点)	学	習態度(減点)
成績評価	,,		や商品開発 工知識の る。		師の採点に	こよる。	乗じた ・95%以 ・90%以	【上95%未満 【上90%未満		□の態度、提出物) 20点を上限とし □る。
						の回数や	スケジュー			
回				内	容			時間	1	備考
1	食品	加工業	での実習	(実習前の	心構えにつ	ついても含	む)	6		
2			での実習					6		
3			での実習					6		
4			での実習					6		
5			での実習					6		
6			での実習					6		
7			での実習					6		
8			での実習					6		
9			での実習					6		
10			での実習 での実習					6		
12			での実習					6		
13			での実習					6		
14			での実習					6		
15			での実習					6		
授業時間外に 必要な学修	この	実習目!	的を十分	 に把握し、	実習先の負	全品加工業	の業績や内	予容を情報収	集し、熟知	する。
再試験及び補 習対象の実施 基準				評価表、毎 、再評価す		5実習レポ	一トの内容	ぎが不十分な	者について	は、課題を与え、

			ŕ	和2年度	授業	計画書[氵	ノラバス]			
科目名	F20)4	会社	経営	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2		学期	前期 後期
授業の方法	Ĭ	寅習	区分	必修	単位数	2	時間数	30	厚	涓講時期	4月~1月
科目の概要	農大	の学生と	出資会社	を教材に、会	社経営	計画や販売計	画などを	学ぶ。			
講師名	畜産	学科	フードビ	ジネス専攻	主任技師	師 今吉里華				映のある。 よる授業	
到達目標				基礎知識を身 営及び経理に							
使用教材	講師	準備資料									
	方法	・提出	修報告書	(90点)	14.6	出席率(・た占	授業由	学習態度	き(減点) 是出物により
成績評価		提出な 提出な ・内容 A (fi B (e	あり:40 なし:0 臭い)50 蜂通)20 悪い)0	点点点	数と ・9 ・9 ・8	によった。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	1.0 満 0.9 満 0.8			上限とし	
				授業の計	画(授業	きの回数やス/	ケジュール	·)			
口				内	容				時間		備考
1∼6	学生	出資会社	生に関す	る各組織ごと	の運営	方法の研究			6		
7∼12	学生	出資会祥	社に関す	る各組織ごと	の運営	方法の実践			6		
13~18	学生	出資会社	社に関す	る各組織ごと	: の運営:	状況の中間報	告		6		
19~24	学生	出資会社	社の新役	員体制つくり	(14	年生への引き	継ぎ)		6		
25~30	学生	出資会社	 社の新役	員体制つくり	(14	年生への引き	— 継ぎ)		6		
授業時間外に 必要な学修	特に	なし						•		•	
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	して再記 	試、補講	は認めない。							

			4	和2年度	授業	計画書[:	シラバス	ス]			
科目名	F20	05	食品	化学	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年		学期	前期後期
授業の方法	į	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	ļ.	開講時期	前期
科目の概要	等に	ついて 的根拠	知識を深	め、安全で美	味しい	あ品開発に関	する知識	を深める	。また	こ、実際に	ている官能評価 開発した商品の るための手法を
講師名		講師	食品開発 福山 明 ードビジ		対授 松芽	葉 久美				≦験のある₹ 【る授業科】	
到達目標				の科学的根拠 識を身につけ		こめの測定機	器の取扱	方法、商	i品規格	各書の作成	手法、官能評価
使用教材	講師	iからの	配付資料								
	方法		知識(9			出席率((10点)			学習態度	E(減点)
成績評価	基準	講義ごの評価	との試験	・レポートに	数と ・9。 ・9。 ・8。	5率に応じたか : する。 5%以上 0%以上95%未 0%以上90%未 0%以上80%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8			□の態度、抗 :上限とし ⁻	是出物により て除する。
				授業の計	画(授業	きの回数やスク	ケジュー	ル)			
口				内	容			į	時間		備考
1	商品	開発時	の品質管	理					1	外部講師	fi
2	水分	活性と	微生物の	成育 (水分)	活性の制	御方法、測定	官方法)		1	外部講師	Б
3	測定	器具の	確認(糖	度、塩分、PI	H、水分剂	舌性)			1	外部講師	fi
4~8	各自	が製造	した食品	の測定(糖度	き、塩分、	PH、水分活	性)		5	外部講師	ţī
9	テス	, F							1	松葉	
10~15	商品	開発の	ための官	能評価につい	て				6	食品開発	ミセンター
授業時間外に 必要な学修	特に	なし									
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	として	再試及び	補講は行わな	いが、ヤ	特別な事情が	ある場合	は時間外	に補請	觜を認める 。	
											

			4	和2年原	度 授業	計画書[氵	ンラバス	.]				
科目名	F2	06	食品製	造実習	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期 後期		
授業の方法		実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月~1月		
科目の概要	農産	[物、 畜原	産物を使	って加工技	術を学び、	商品開発を	学ぶ。					
講師名	畜産	三学科	フードビ	ジネス専攻	主任技能	币 今吉里	華		経験のある よる授業科			
到達目標	農産	を物、 畜原	産物の加	工を行い、	商品開発0	の知識及び製	造技術を	習得する。				
使用教材	食品	製造実	習関連資	料 								
	方法	知記	畿(40)	点) 扫	技能・技術	: (40点)	出席率	区(20点)	学習	習態度(減点)		
成績評価	基準	た商品関	畜産物: 開発を通 D習得を ³	して製	背師の採点 (こよる。	乗じた ・95%以_ ・90%以_	上95%未満 上90%未満		の態度、提出物 20点を上限とし る。		
				-4-	ries.			n+ 88		/++: -+v		
口				内	容			時間		備考		
18	食品	衛生に	工器具類 関する基 関する基	の取り扱い 礎知識 礎知識	説明			18				
18	農大	産の小	麦を使っ	を使った焼 た製パン製 たジャム類	造実習	告実習 フルーツ製造	実習	18				
18						ノーセージ製 食品製造実習	造実習	18				
36				関連した加 使った新商		美習		36				
授業時間外に 必要な学修	受業時間外に 必要な学修											
再試験及び補 習対象の実施 基準	実施 原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。											

			4	和2年度	授業	計画書[含	シラバス	ス]			
科目名	F207		新商品	品開発	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年		学期	前期 後期
授業の方法	演習	1	区分	必修	単位数	2	時間数	30	阱	講時期	4月~1月
科目の概要	宮崎県	や農ス	大で生産	される素材を	用いた新	新商品開発を	行い、農	大ブラン	ド作りに	こついて	ぶ
講師名	畜産学和	斗 :	フードビ	ジネス専攻	主任技能	市 今吉里	華		実務経験等による	験のある勃 る授業科 [数員 目
到達目標	県内や原	農大の	の農産物	を用いた新商	i品開発を	を通して、地	元の企業	と連携し	て農大	ブランド雨	筒品を広める。
使用教材	食品製油	告実習	g関連資	料							
	方法	研	修報告書	: (90点)		出席率((10点)			学習態度	E(減点)
成績評価	基準に対して	是出た 内容 A (自 3 (音	5り:40, よし: 0, まい) 50, き通) 20, い) 0,	点点点	数 è · 9 · · 8 · · 7	菁率に応じた1 : する。 5%以上 0%以上95%未注 0%以上90%未注 0%以上80%未 0%以上80%未 0%未満	1.0 満 0.9 満 0.8	じた点		の態度、抗 上限とし [・]	是出物により て除する。
				授業の計	画(授業	美の回数やス/	ケジュー	ル)			
旦				内	容				時間		備考
1~6	企業と近	連携〕	_ン た新商	品開発の検討	、活動言	十画つくり			6		
7 ~ 12	試作品の	の製さ	告及び試	食会実施					6		
13~18	高校と流	車携↓	した新商	品開発					6		
19~24	栄養成分	分表方	示及び商	品規格書作成					6		
25~30	販売実習	P)							6		
授業時間外に 必要な学修	特になり	L						ļ.			
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則と「	して事	再試及び	補講は行わな	いが、年	特別な事情が	ある場合	は時間外	・に補講る	を認める。	

		令	和2年度	授業	計画書[シ	ラバス]					
科目名	F208	フードヒ	ごジネス	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年		学期	後期	
授業の方法	講義・消	寅習 区分	必修	単位数	2	時間数	30	開	講時期	9月~3月	
科目の概要					C推進機構) 出す実践力を			を学ぶ	大学や高	等学校との連	
講師名	農業大学				数授 松葉 主任技師 ·		左		験のある による哲		
到達目標					この取り組みを 自ら考え行動				った加工	技術や商品開	
使用教材	講師が配	2布する資料									
	方法	研修報告書	(90点)		出席率(10点)			学習態	度(減点)	
成績評価 ・提出あり:40点 提出なし:0点 ・内容 本 (A(良い)50点 B(普通)20点 C(悪い)0点 出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 20点を上限として除する。											
			授業の計	·画(授業	(の回数やスケ	ジュール)					
旦			内	容			時	誧		備考	
1	講義の進	進め方、グル-	ープワーク					1	担当講師	5:松葉	
2~15	宮崎市外	ヾのフードビミ ト郭団体 み^ ソプロジェク	PEC推進	機構主催	· · · · ·		1	14	担当講師	: 松葉、今吉	
GAP食材をつかったおもてなしコンテスト関連 延岡学園高等学校調理科との連携 本校GAP食材を使った加工品開発											
30 レポート 1 担当講師: 松葉											
授業時間外に 必要な学修	スイーツ	ノプロジェク	トについては	、各自で	・レシピを考案で	すること	,	l			
再試験及び補 習対象の実施 基準	習対象の実施 レポート提出状況やテストの点数等が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。										

			令	和2年度	授: 	業計画書	シラバス	ス]				
科目名	F209 商品開発と流通販売			学科	科名 全学科 学年 フート゛ビジネス		2年		学期	前期		
授業の方法	ì	演習	区分	一般	単位数	数 1	時間数	15		開講時期	7月~9月	
科目の概要	マーケティングの基礎知識や国内における食の志向について学ぶと共に、持続可能な農業ビジネスを 的にイメージ出来るよう、顧客が買いたくなる「商品」や「サービス」についてグループディスカッ ンを通じて学ぶ。											
講師名	外部講師 中島 隆志(パシフィックコンサルタンツ株式会社九州支宮崎事務所長代理、農業振興公社6次産業化プランナー) 農学科 フードビジネス専攻 教授 松葉久美								生 実務経験のある教員 等による授業科目			
到達目標			ーケティ: 到達目標。		知識と	技術について	理解し、則	販売戦略	を計画	i的に実践で	きる力を身に	
使用教材	講師が準備する資料											
	方法 研修報告書(90点) 出席率(10点)								学習態度(減点)			
成績評価	・提出 提出あり:40点 提出なし:0点 ・内容 A(良い)50点 B(普通)20点 C(悪い)0点					出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7			授業中の態度、提出物により 20点を上限として除する。			
	<u> </u>			授業の計	画(授	受業の回数やス	スケジュー	ル)				
回	内 容								時間 備 君		備考	
1	現代市場とマーケティング ・変貌する食と農								1	;	外部講師	
2	売れる仕組みを考える ・普段の買い物から物を買う理由を考える ・販売体験から売れる理由、売れない理由を考えてみる								1	1 外部講師		
3	販売理念(経営理念)を作る ・機能の定義;物が売れる理由を考えてみる ・機能の整理:抽出した機能から、目指すべき商売を考える								1 外部講師		外部講師	
4	商品のコンセプトを整理する ・目指すべき商売からサービス構成要素を整理する ・サービス構成要素の優先順位を考える								1 外部講師		外部講師	
5	仕入 (製造) 計画を作る ・ どんな姿で販売するかをイメージする ・ 仕入 (製造) 手順を整理する								1 外部講師		外部講師	
6	品質管理について ・仕入(製造)の手順、販売のイメージを基に、守らなければならない事を考える。								1 外部講師		外部講師	
7~8	原価管理を行う ・仕入(製造)手順を基に、必要な機材を決定する ・仕入(製造)手順を基に、材料原価を試算する ・費やす時間と費やす加工時間より、人件費、光熱費を試算する。 ・機材の損料を試算する ・荒原価を算出する ・必要な利益額から、販売必要な数量を算出する								2 外部講師		外部講師	
9~10	販売計画を作る 販売計画の発表								2	外部講師		
11~15	フィールドワーク研修 販売関連企業実習・レポート								5	5 視察研修		
	販売計画を作るために必要な市場調査(商品価格) やイベント時における消費者の反応についてまとめおくこと。学んだことをレポートにまとめる。									ついてまとめ、		
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則	としてi	再試及び礼	浦講は行わな	いが、	特別な事情が	ぶある場合に	は時間外	に補講	を認める。		

令和2年度 授業計画書[シラバス]												
科目名	F21	10	6次産	業化	学科名	全学科 フート゛ビ゙ジネス	学年	2年		学期	前・後期	
授業の方法	講義	講義・演習 区分		一般	単位数	数 1	時間数	15	厚	開講時期	4月~3月	
科目の概要	宮崎県内における6次産業化の施策や総合化事業計画について学ぶ。 県内の6次産業化の実践事例を知る。											
講師名	宮崎県農業振興公社 新農業支援課 実務経験のある教員 農業大学校 甲斐紀子 等による授業科目											
到達目標	学生が、6次産業化に関する知識と技術について理解し、自ら実践できる力を身につけることを到達目標とする。											
使用教材	講師が配布する資料											
	方 法 知識 (90点) 出席率 (10点)								学習態度(減点)			
成績評価	講義ごとの試験・レポートにより評価 出席率に応じた係数を乗じた点数とする。											
授業の計画(授業の回数やスケジュール)												
口	内 容								時間		備考	
1	宮崎県の6次産業化に関する支援策について								農業連携推進課 6次産業化推進担当			
2	宮崎県における6次産業化の取組について 総合化事業計画について								公益社団 1 宮崎県農 新農業支		農業振興公社	
3~6	校外学習(6次産業化に取り組む農業経営者視察 等)								1	視察研修		
7~10	校外学習 (6次産業化に取り組む農業経営者視察 等)								2	視察研修		
11~15	6次産業化商品開発								5 外部講師		外部講師	
授業時間外に 必要な学修	県内の6次産業化の取組事例等の収集や商品開発など学んだことをレポートにまとめる。											
再試験及び補 習対象の実施 基準	レポート提出状況やテストの点数等が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。											